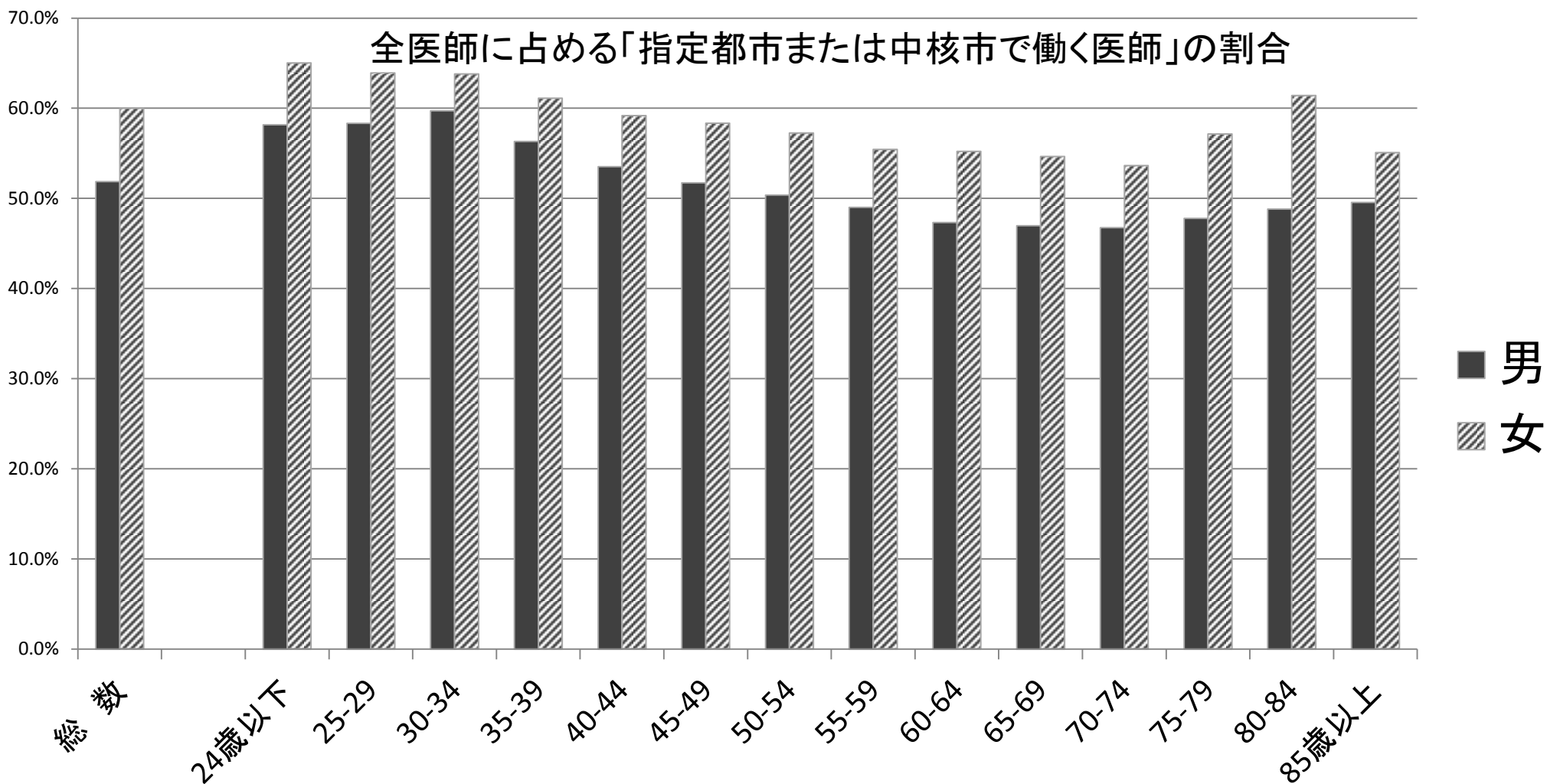


医師偏在に係る参考資料

1. 地域に関する課題

都市部（指定都市・中核市）で働く 医師の割合（性・年齢階級別）



北海道の医学部卒業生の動向

出典：臨床研修修了者アンケート調査（平成26年）（厚生労働省調べ）

（参考：大学入学前）
（高校等を卒業する前までに過ごした
期間が最も長い都道府県）

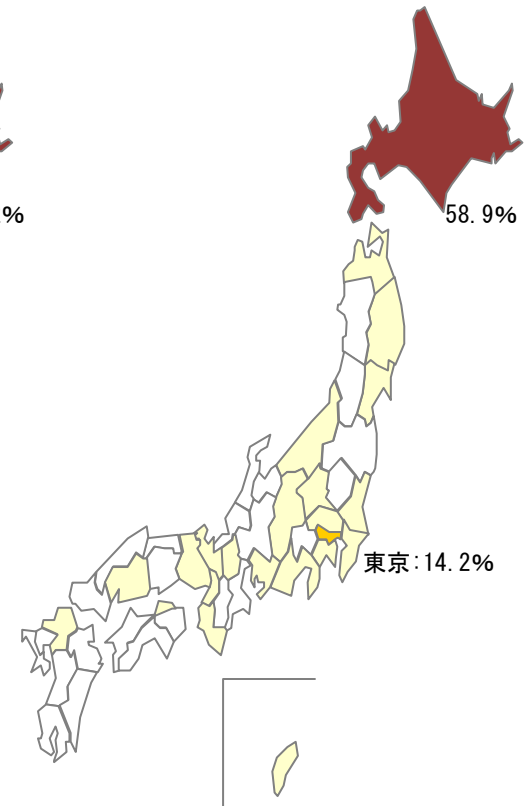
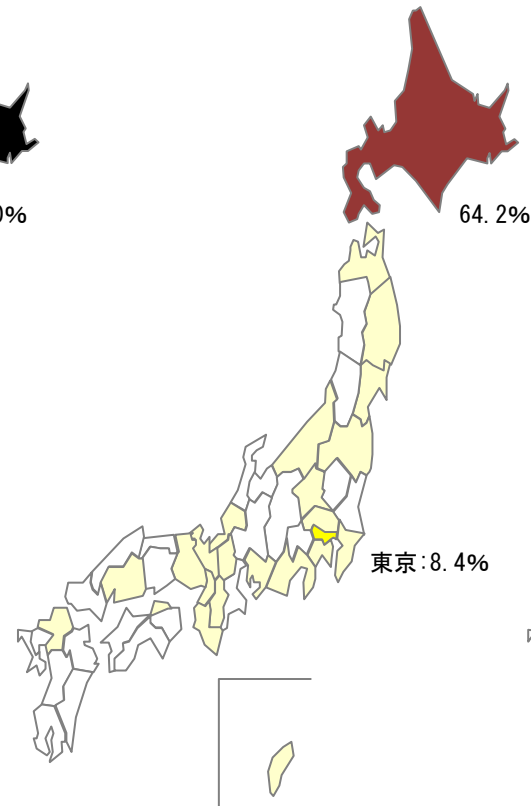
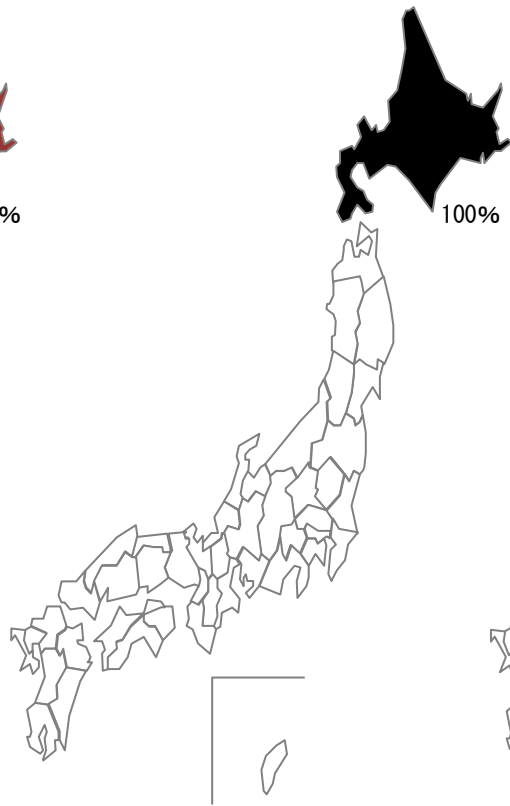
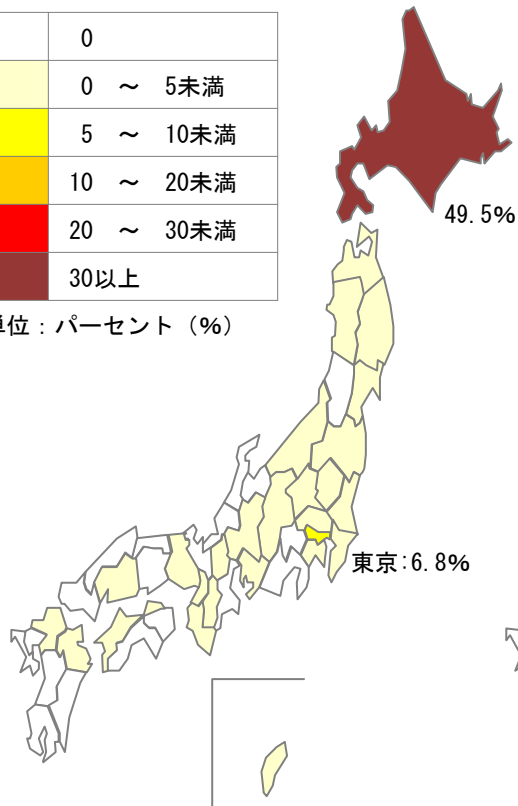
大学
（北海道内）
（回答者：190人）

医師1年目
（臨床研修を行った
都道府県）

将来の希望
（研修後に希望する
都道府県）

0
0 ～ 5未満
5 ～ 10未満
10 ～ 20未満
20 ～ 30未満
30以上

単位：パーセント（%）



岩手県の医学部卒業生の動向

出典：臨床研修修了者アンケート調査（平成26年）（厚生労働省調べ）

（参考：大学入学前）
（高校等を卒業する前までに過ごした
期間が最も長い都道府県）

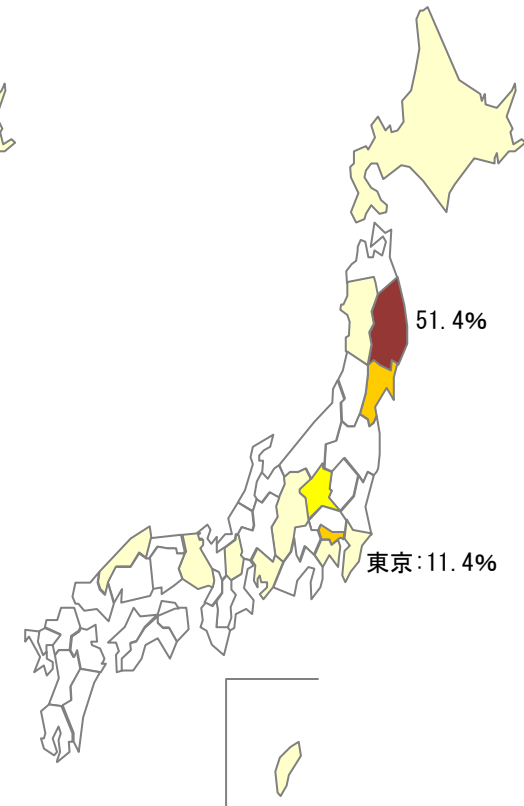
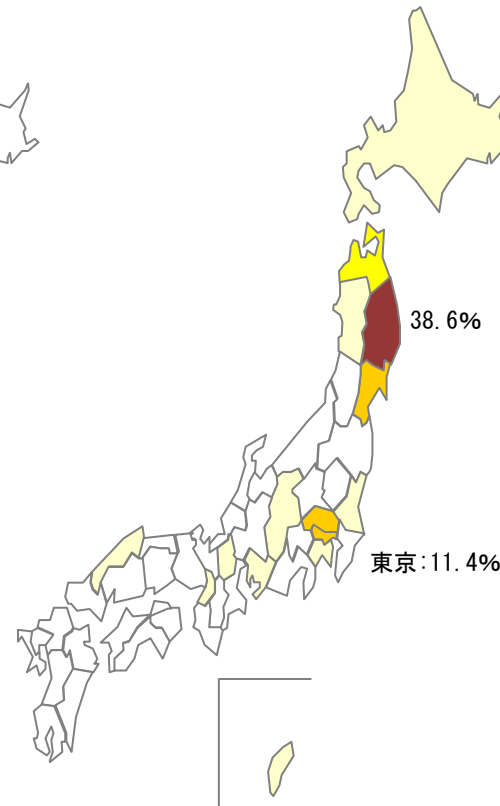
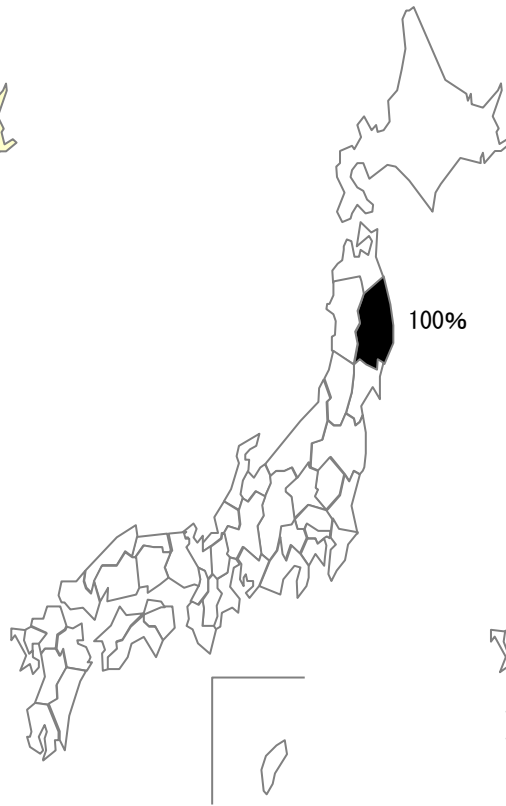
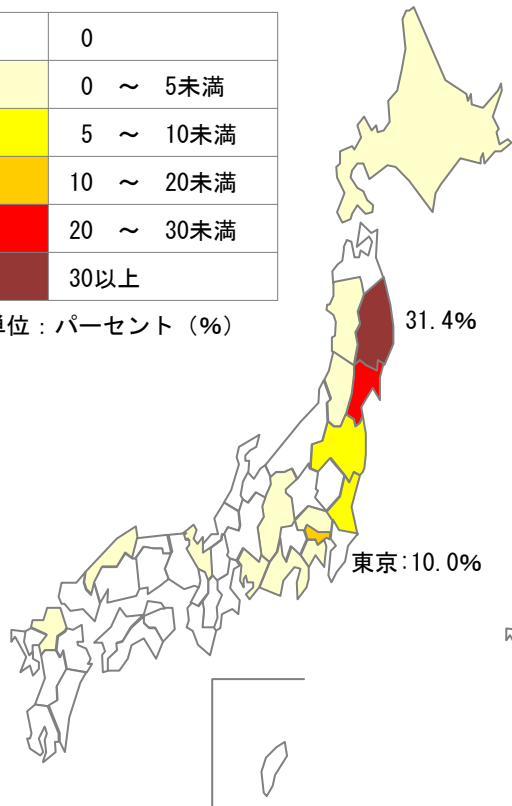
大学
（岩手県内）
（回答者：70人）

医師1年目
（臨床研修を行った
都道府県）

将来の希望
（研修後に希望する
都道府県）

0
0 ～ 5未満
5 ～ 10未満
10 ～ 20未満
20 ～ 30未満
30以上

単位：パーセント（%）



千葉県医学部卒業生の動向

出典：臨床研修修了者アンケート調査（平成26年）（厚生労働省調べ）

（参考：大学入学前）
（高校等を卒業する前までに過ごした
期間が最も長い都道府県）

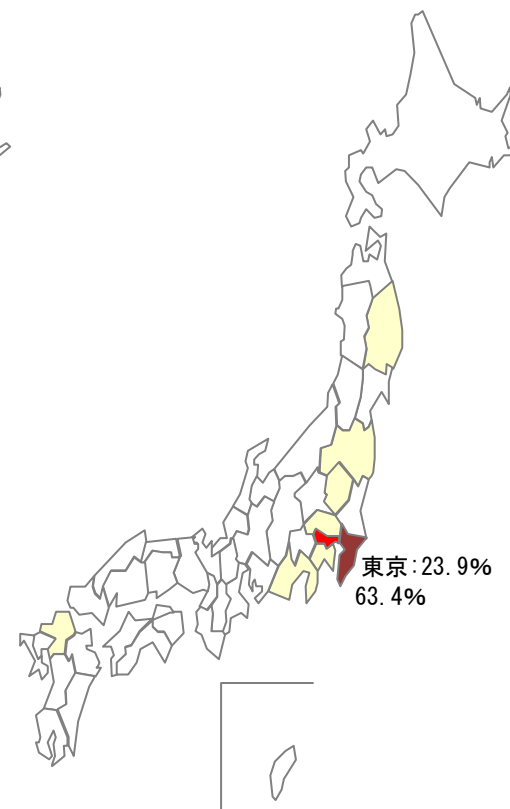
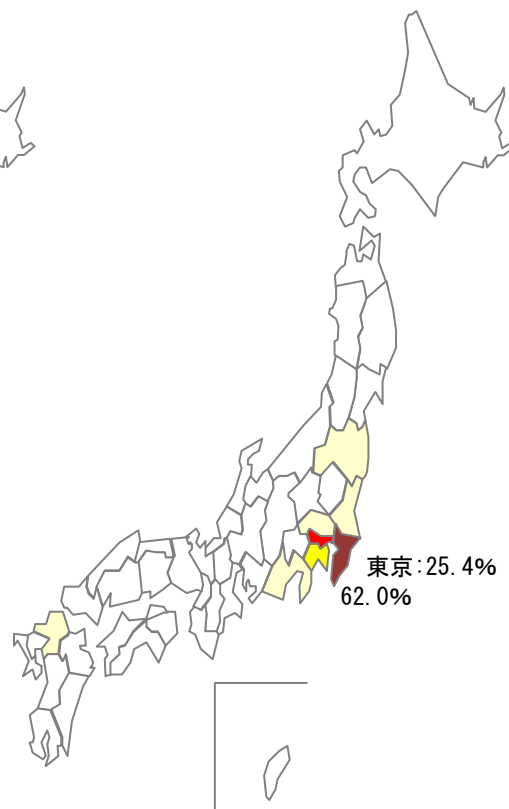
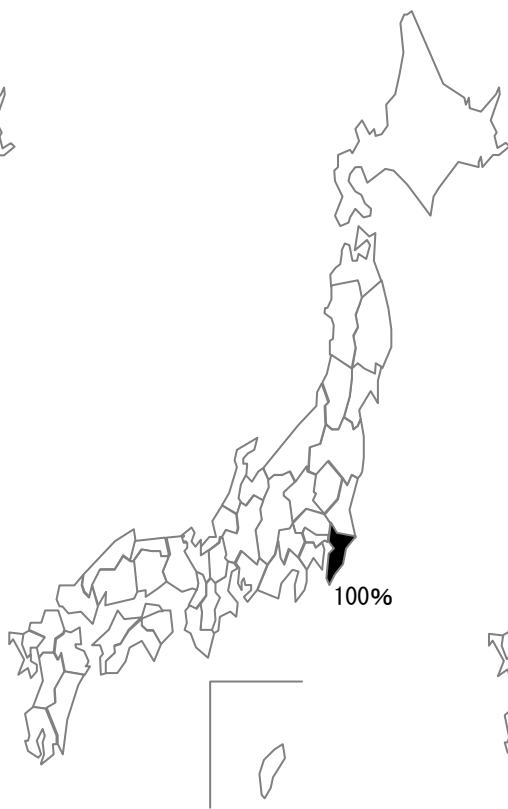
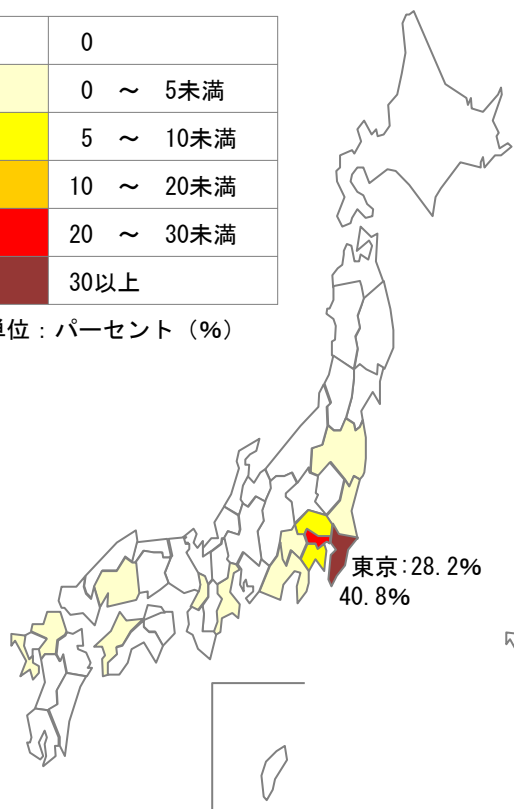
大学
（千葉県内）
（回答者：71人）

医師1年目
（臨床研修を行った
都道府県）

将来の希望
（研修後に希望する
都道府県）

0
0 ～ 5未満
5 ～ 10未満
10 ～ 20未満
20 ～ 30未満
30以上

単位：パーセント（%）



東京都の医学部卒業生の動向

出典：臨床研修修了者アンケート調査（平成26年）（厚生労働省調べ）

（参考：大学入学前）
（高校等を卒業する前までに過ごした
期間が最も長い都道府県）

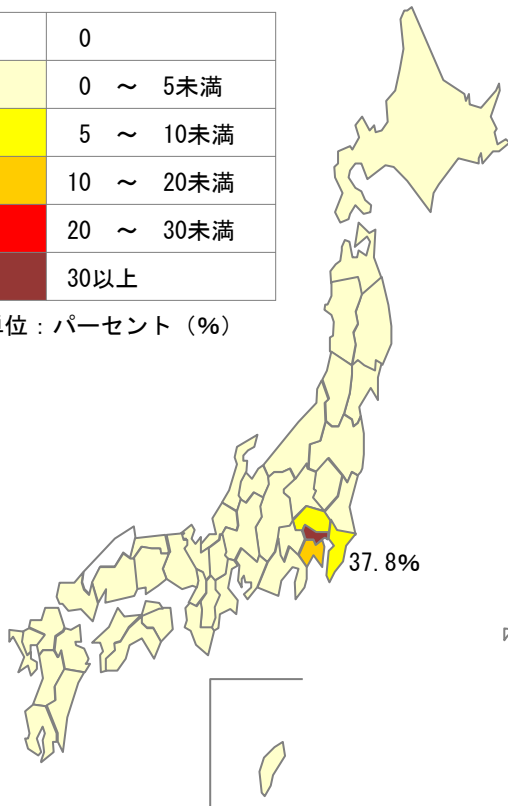
大学
（東京都内）
（回答者：1093人）

医師1年目
（臨床研修を行った
都道府県）

将来の希望
（研修後に希望する
都道府県）

0
0 ～ 5未満
5 ～ 10未満
10 ～ 20未満
20 ～ 30未満
30以上

単位：パーセント（%）



大阪府の医学部卒業生の動向

出典：臨床研修修了者アンケート調査（平成26年）（厚生労働省調べ）

（参考：大学入学前）
（高校等を卒業する前までに過ごした
期間が最も長い都道府県）

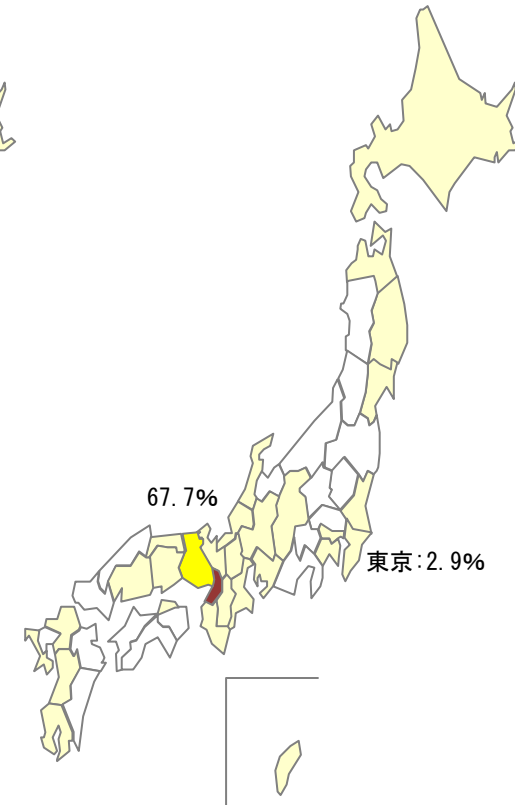
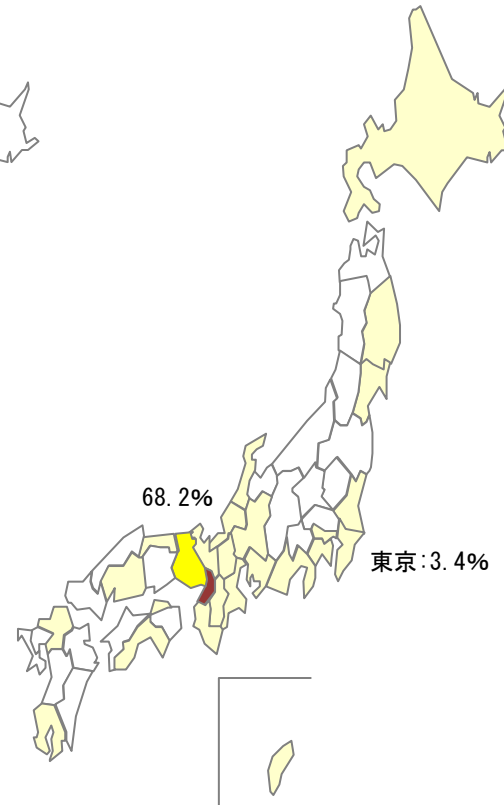
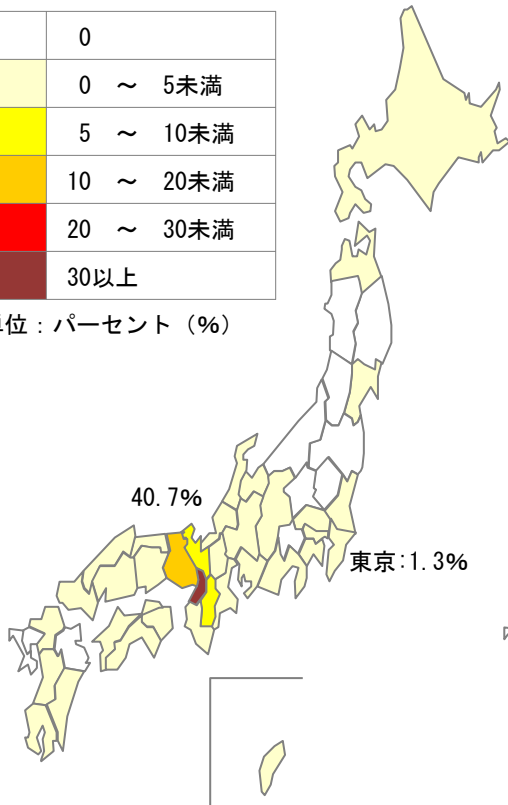
大学
（大阪府内）
（回答者：381人）

医師1年目
（臨床研修を行った
都道府県）

将来の希望
（研修後に希望する
都道府県）

0
0 ～ 5未満
5 ～ 10未満
10 ～ 20未満
20 ～ 30未満
30以上

単位：パーセント（%）



和歌山県の医学部卒業生の動向

出典：臨床研修修了者アンケート調査（平成26年）（厚生労働省調べ）

（参考：大学入学前）
（高校等を卒業する前までに過ごした
期間が最も長い都道府県）

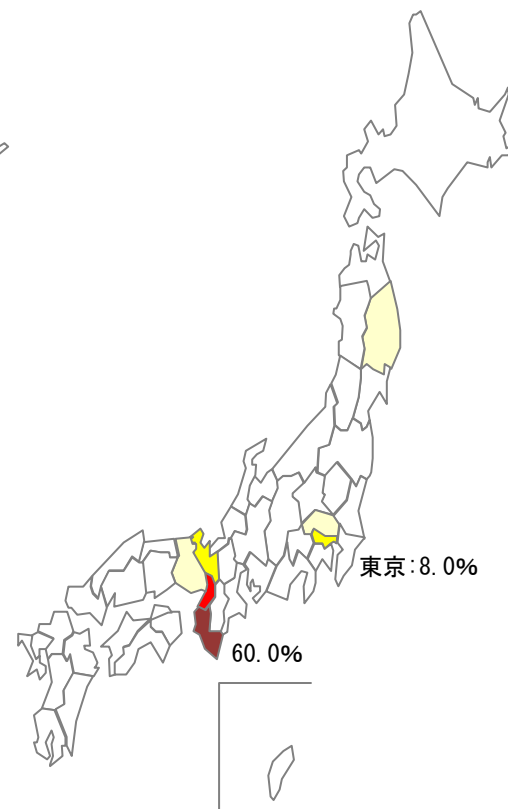
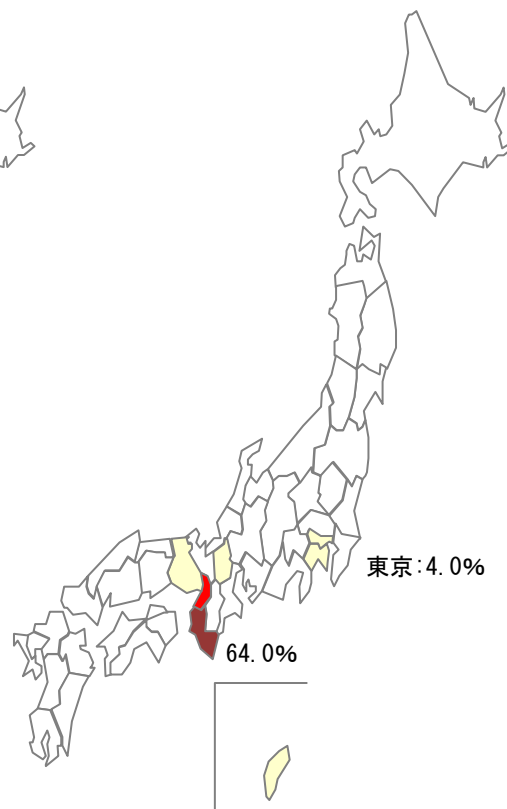
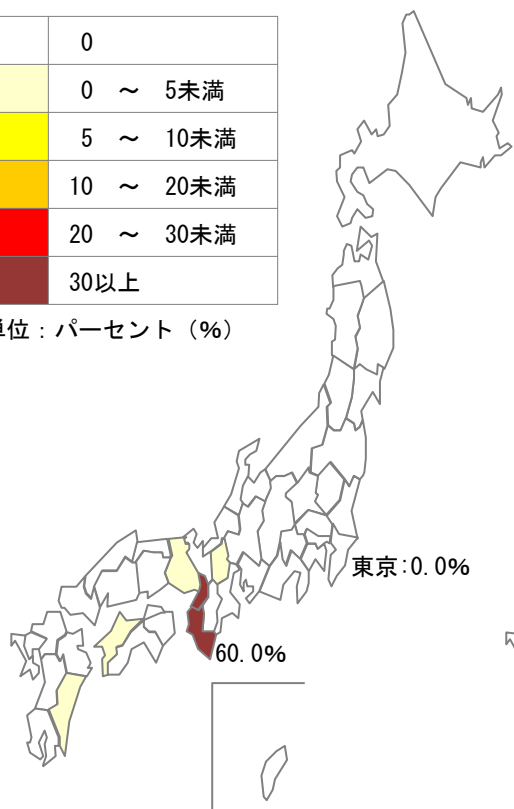
大学
（和歌山県内）
（回答者：50人）

医師1年目
（臨床研修を行った
都道府県）

将来の希望
（研修後に希望する
都道府県）

0
0 ～ 5未満
5 ～ 10未満
10 ～ 20未満
20 ～ 30未満
30以上

単位：パーセント（%）



島根県の医学部卒業生の動向

出典：臨床研修修了者アンケート調査（平成26年）（厚生労働省調べ）

（参考：大学入学前）
（高校等を卒業する前までに過ごした
期間が最も長い都道府県）

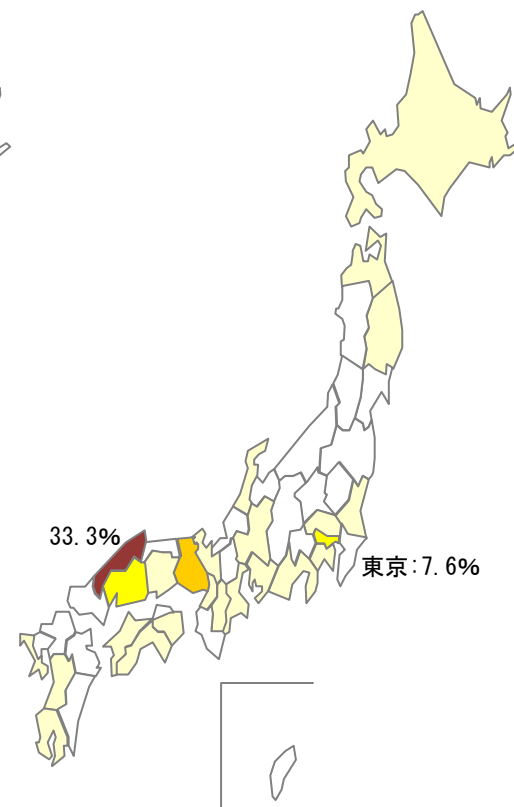
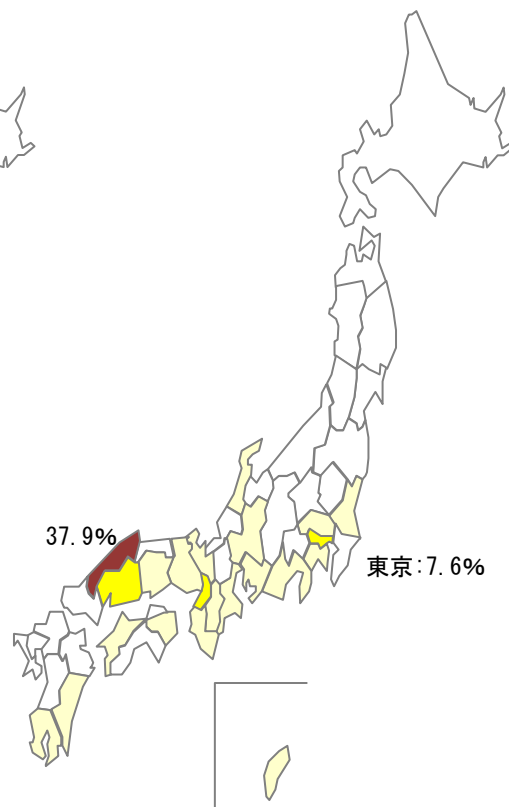
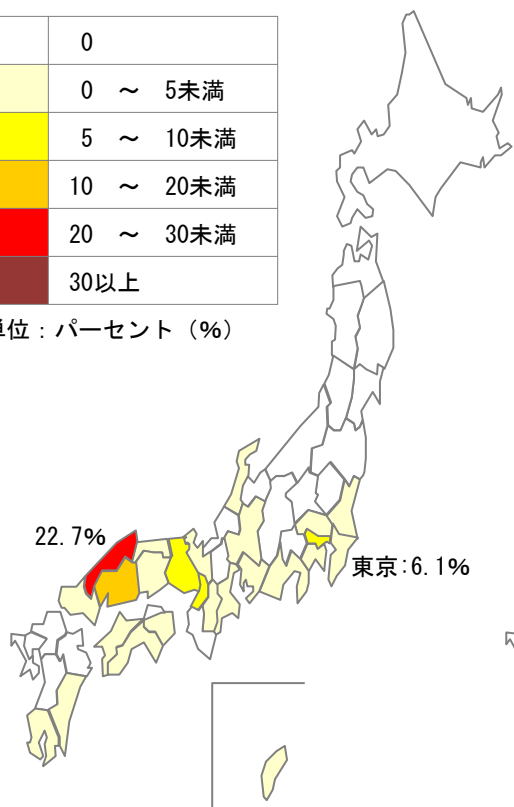
大学
（島根県内）
（回答者：66人）

医師1年目
（臨床研修を行った
都道府県）

将来の希望
（研修後に希望する
都道府県）

0
0 ～ 5未満
5 ～ 10未満
10 ～ 20未満
20 ～ 30未満
30以上

単位：パーセント（%）



愛媛県の医学部卒業生の動向

出典：臨床研修修了者アンケート調査（平成26年）（厚生労働省調べ）

（参考：大学入学前）
（高校等を卒業する前までに過ごした
期間が最も長い都道府県）

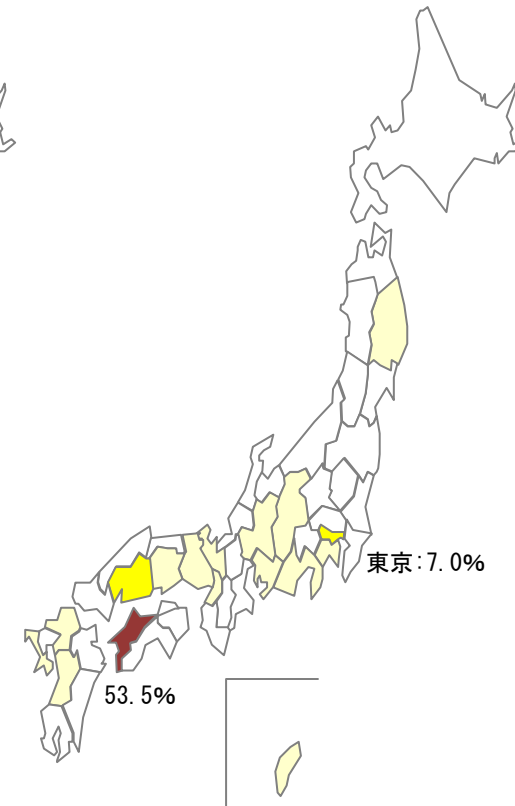
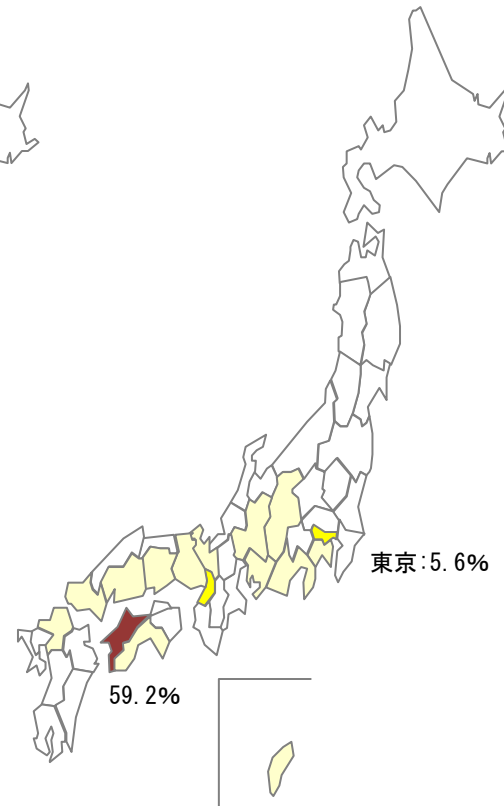
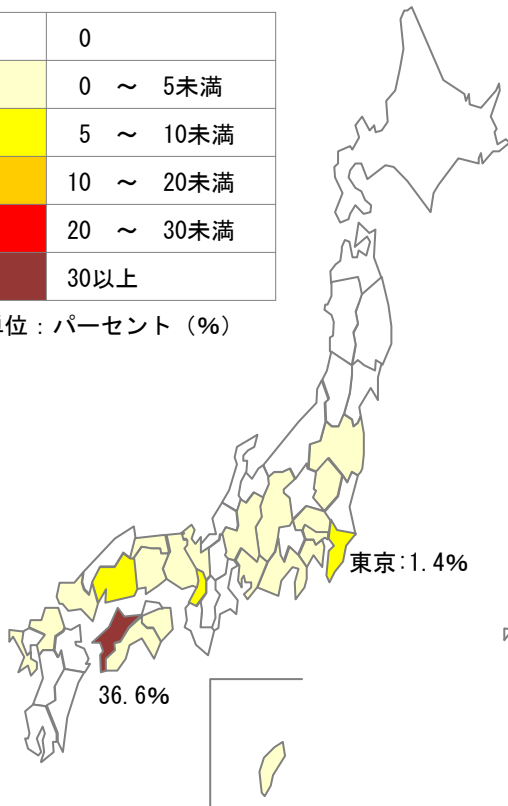
大学
（愛媛県内）
（回答者：71人）

医師1年目
（臨床研修を行った
都道府県）

将来の希望
（研修後に希望する
都道府県）

0
0 ～ 5未満
5 ～ 10未満
10 ～ 20未満
20 ～ 30未満
30以上

単位：パーセント（%）



福岡県の医学部卒業生の動向

出典：臨床研修修了者アンケート調査（平成26年）（厚生労働省調べ）

（参考：大学入学前）
（高校等を卒業する前までに過ごした
期間が最も長い都道府県）

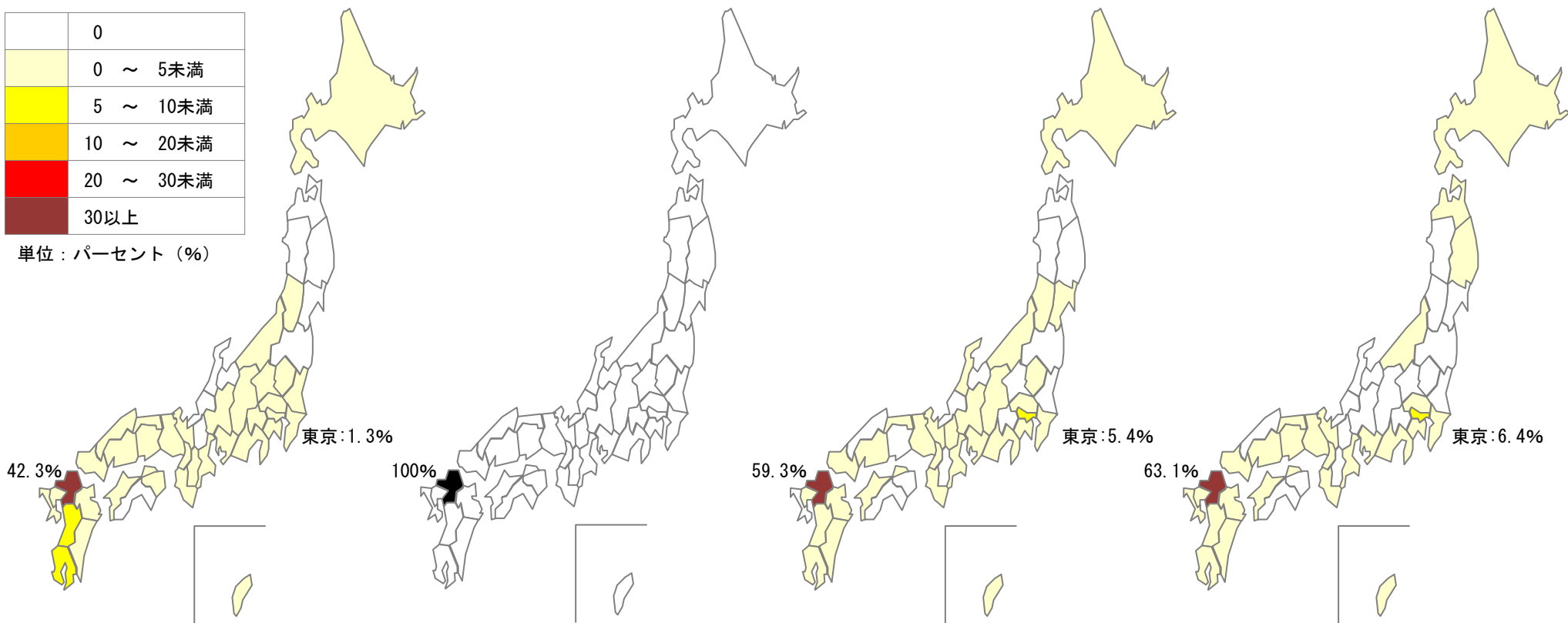
大学
（福岡県内）
（回答者：312人）

医師1年目
（臨床研修を行った
都道府県）

将来の希望
（研修後に希望する
都道府県）

0
0 ～ 5未満
5 ～ 10未満
10 ～ 20未満
20 ～ 30未満
30以上

単位：パーセント（%）



佐賀県の医学部卒業生の動向

出典：臨床研修修了者アンケート調査（平成26年）（厚生労働省調べ）

（参考：大学入学前）
（高校等を卒業する前までに過ごした
期間が最も長い都道府県）

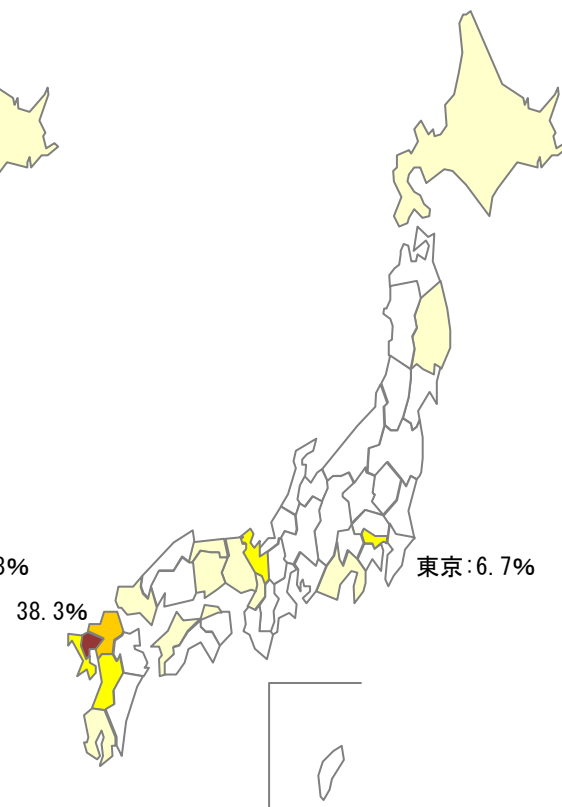
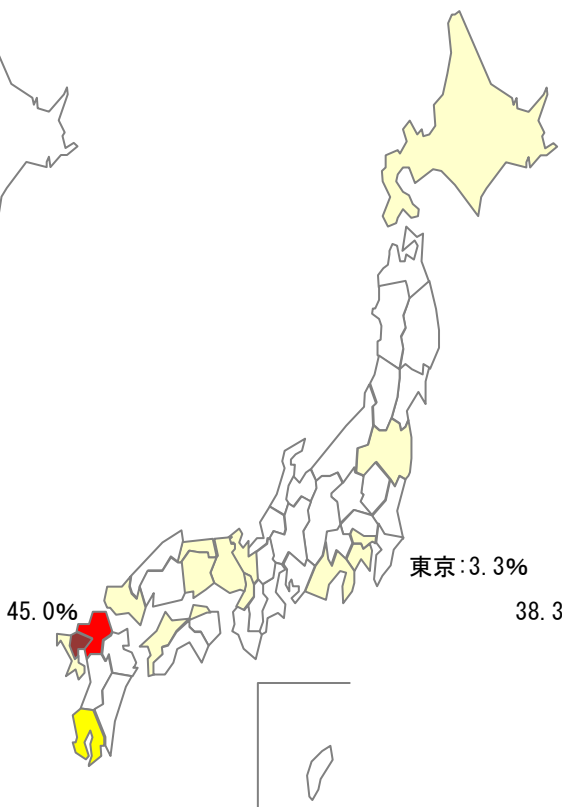
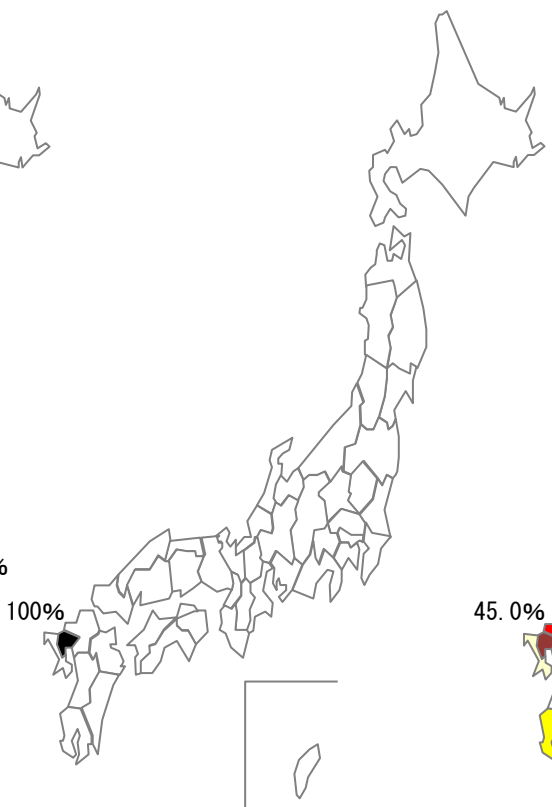
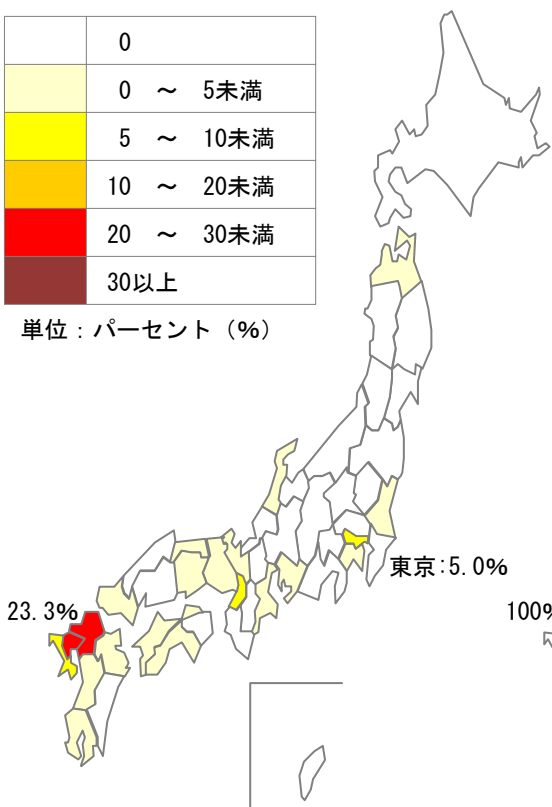
大学
（佐賀県内）
（回答者：60人）

医師1年目
（臨床研修を行った
都道府県）

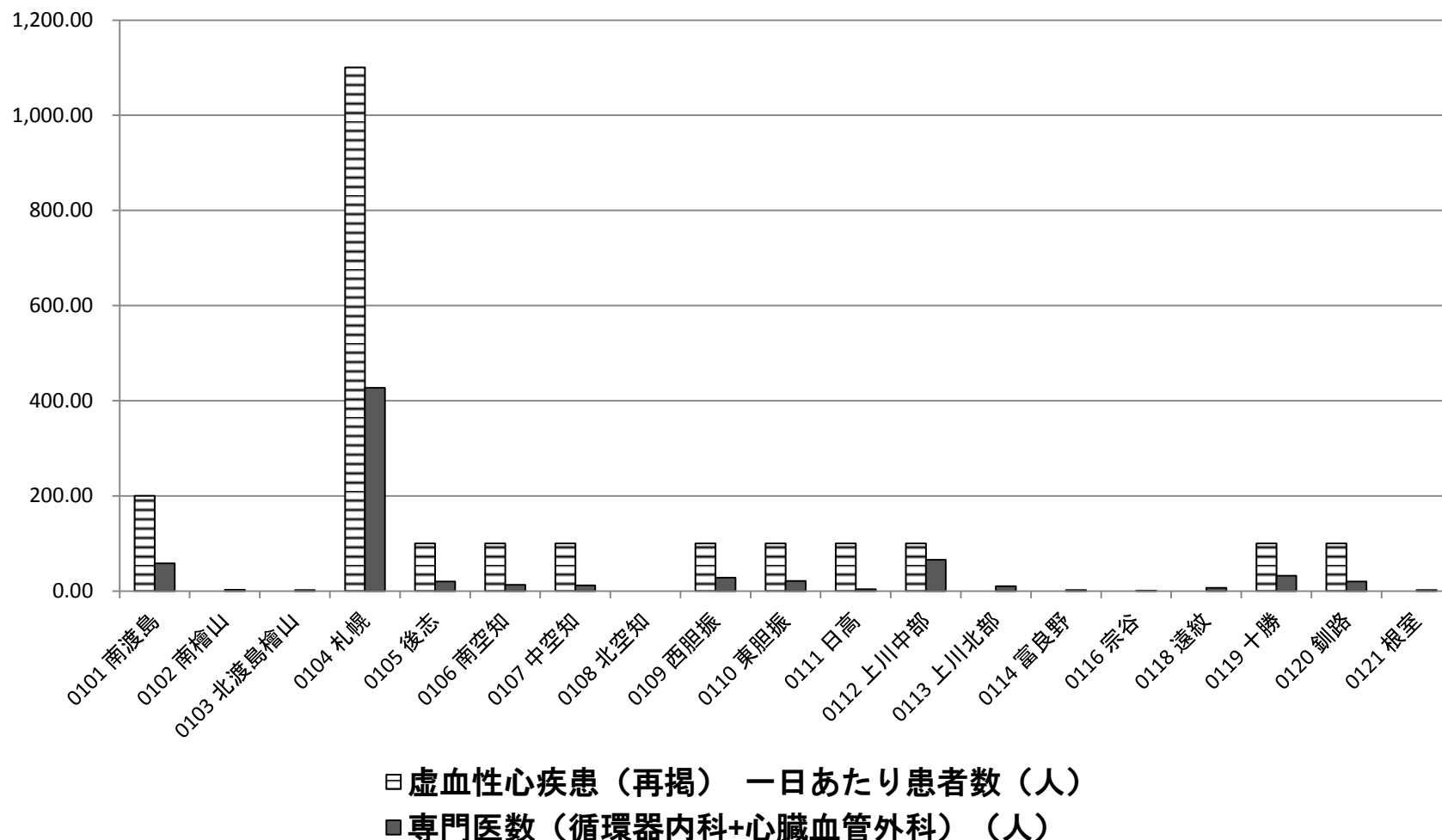
将来の希望
（研修後に希望する
都道府県）

0
0 ～ 5未満
5 ～ 10未満
10 ～ 20未満
20 ～ 30未満
30以上

単位：パーセント（%）



二次医療圏ごとの症例数と専門医数の比較（虚血性心疾患；北海道）

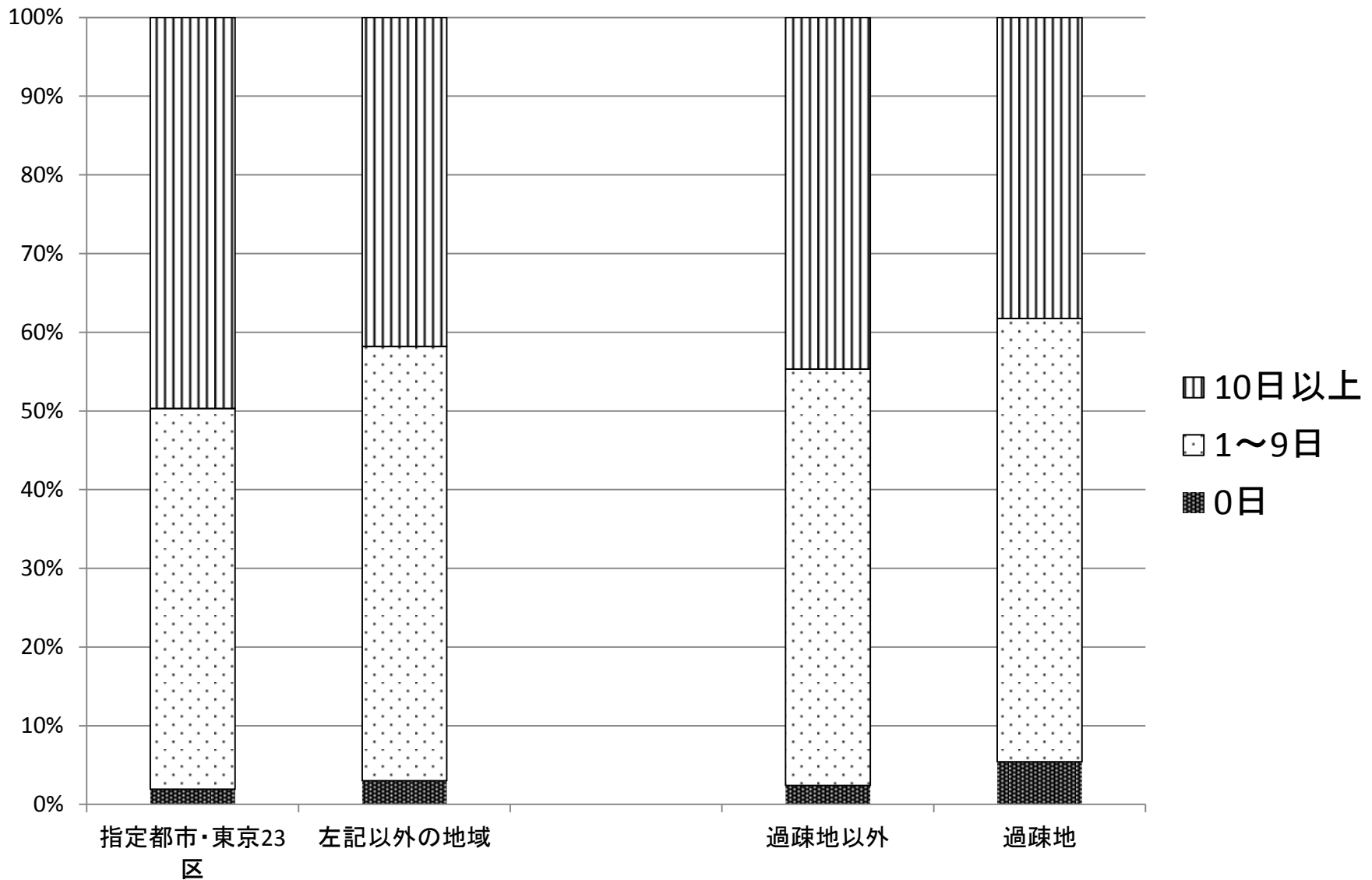


□ 虚血性心疾患（再掲） 一日あたり患者数（人）
 ■ 専門医数（循環器内科+心臓血管外科）（人）

患者数＝平成26年患者調査における二次医療圏ごとの虚血性心疾患の患者数
 （患者調査上、患者数が報告されなかった医療圏は0になっている）

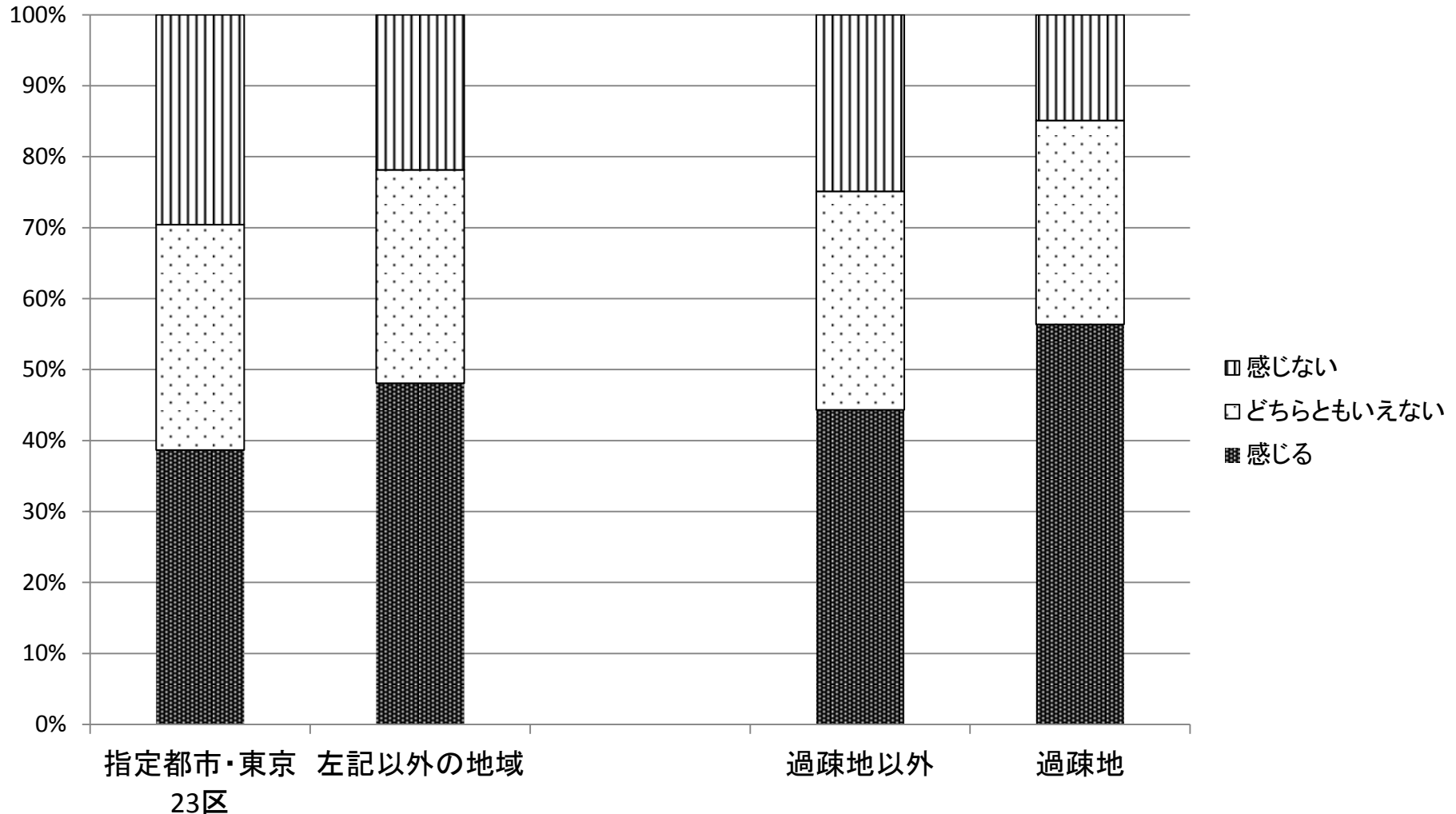
専門医数＝平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査における循環器内科医師数+心臓血管外科医数
 （主たる診療科）

勤務医の1年間の学会・研究会等への参加日数（地域別）



※ 過疎地とは、総務省の過疎地域自立促進特別措置法により市町村単位で指定した過疎地域

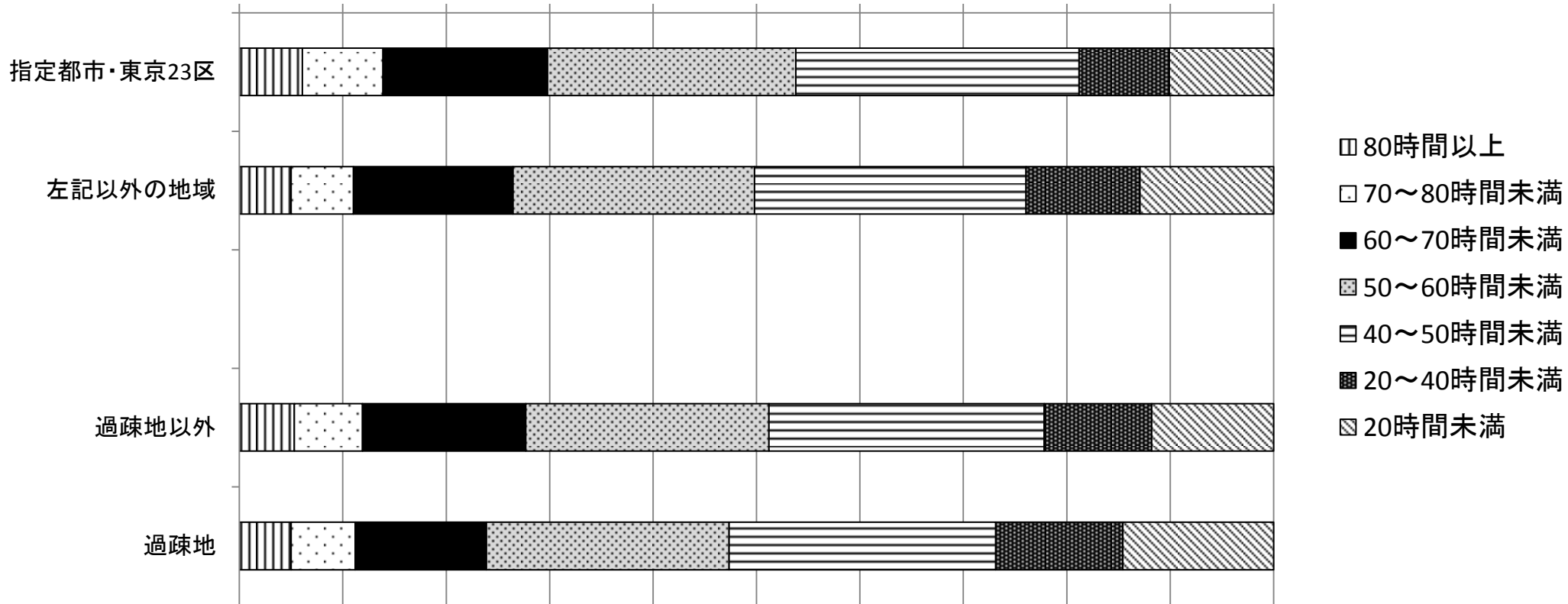
先端医療技術の習得機会の欠如を感じるか？（勤務医の認識、地域別）



※ 過疎地とは、総務省の過疎地域自立促進特別措置法により市町村単位で指定した過疎地域

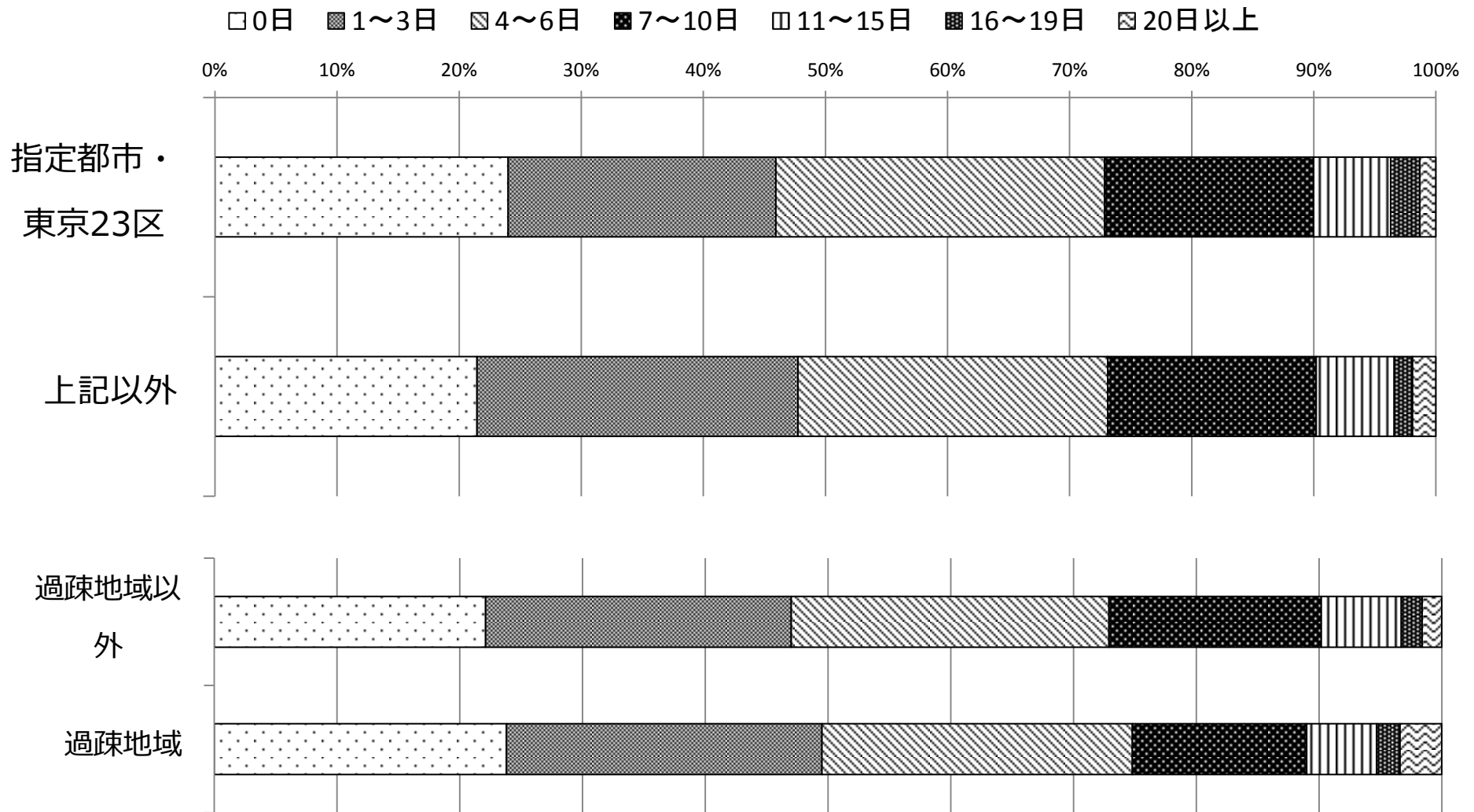
地域別にみた労働時間の比較

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



※ 過疎地とは、総務省の過疎地域自立促進特別措置法により市町村単位で指定した過疎地域

地域別にみた年次有給休暇取得日数



※ 過疎地とは、総務省の過疎地域自立促進特別措置法により市町村単位で指定した過疎地域

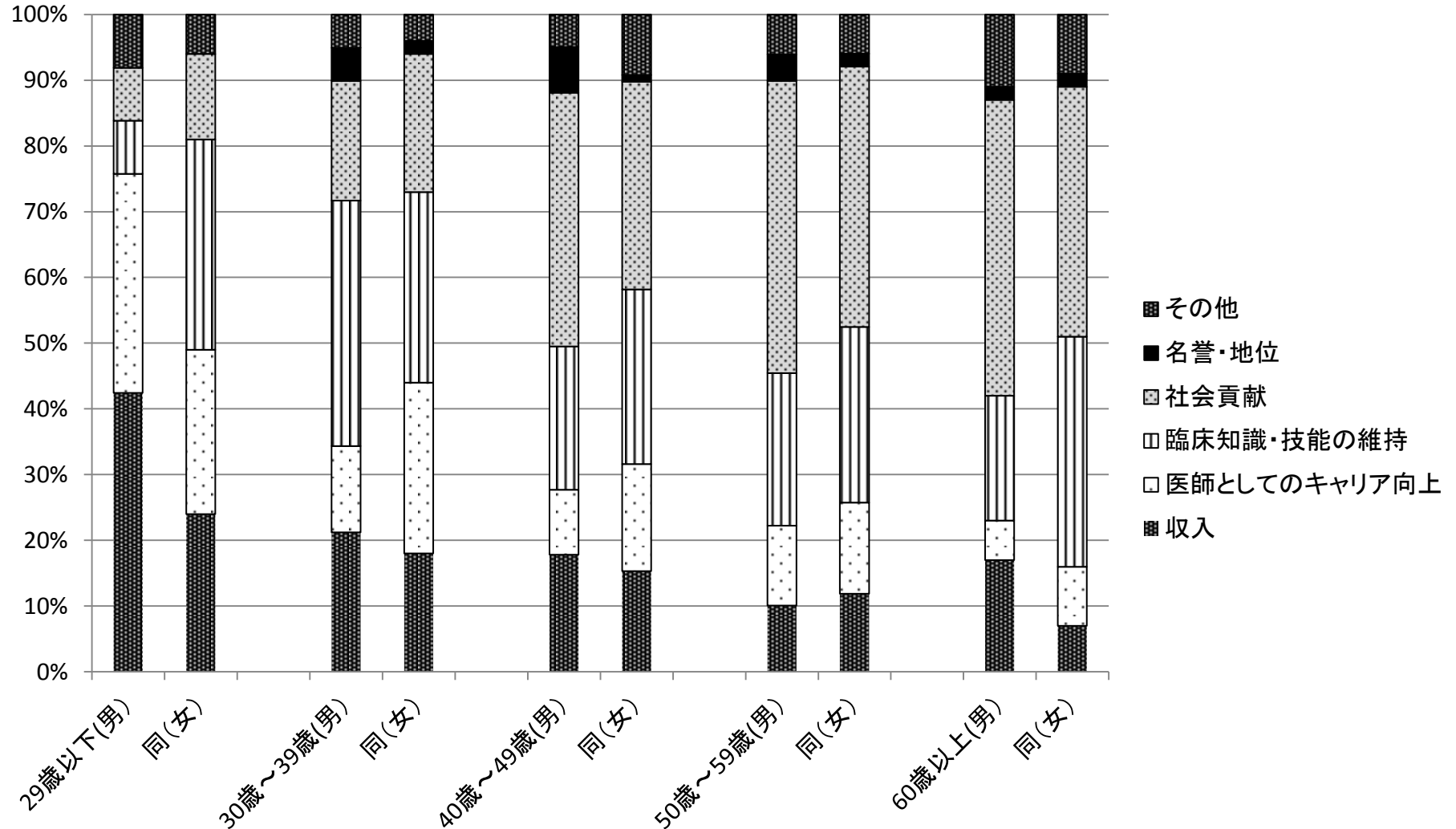
初期研修医が将来の最終的な勤務地決定の際に重視するとした項目

臨床医として最終的に腰を落ち着けて診療する地域を決定する場合、自分の専門診療科での職が得られるという前提でどれくらい重視すると思いますか（単位：%）

	重視する (①+②)	とても重視 する ①	やや重視 する ②	あまり重視 しない	全く重視 しない
協力し合える医師が身近にいるか	86.8	33.5	53.3	8.4	2.1
子供の教育環境	83.3	26.9	56.4	10.9	3.0
自分のライフ・スタイル	81.4	30.6	50.8	13.4	2.5
配偶者の意向	78.7	22.8	55.9	13.9	4.6
自分の出身地	75.7	32.7	43.0	16.3	5.4
両親の居住地	73.7	23.9	49.9	18.3	5.4
協力の得られる医療機関が近くにあるか	73.6	19.9	53.8	18.3	5.3
配偶者の就職先	69.9	21.7	48.2	19.8	7.4
収入	68.5	14.9	53.8	25.0	3.8
自分のキャリア形成	65.2	20.2	45.0	23.9	8.3
土地柄（住民の気質）	65.2	17.7	47.5	25.6	6.6
気候や自然環境	64.7	17.2	47.5	25.8	6.7
配偶者の出身地	62.3	16.4	45.9	26.5	8.5
研究が行えるか	38.2	9.0	29.2	39.9	19.2
医局の意向	32.7	4.1	28.5	37.2	27.2
研修した病院の所在地	32.6	6.9	25.7	39.4	25.2
出身大学の所在地	32.4	7.3	25.0	36.2	28.7
学生・研修医教育にかかわれるか	21.6	4.5	17.1	45.7	30.1
医療機関の親からの継承	18.6	5.8	12.8	22.1	56.1

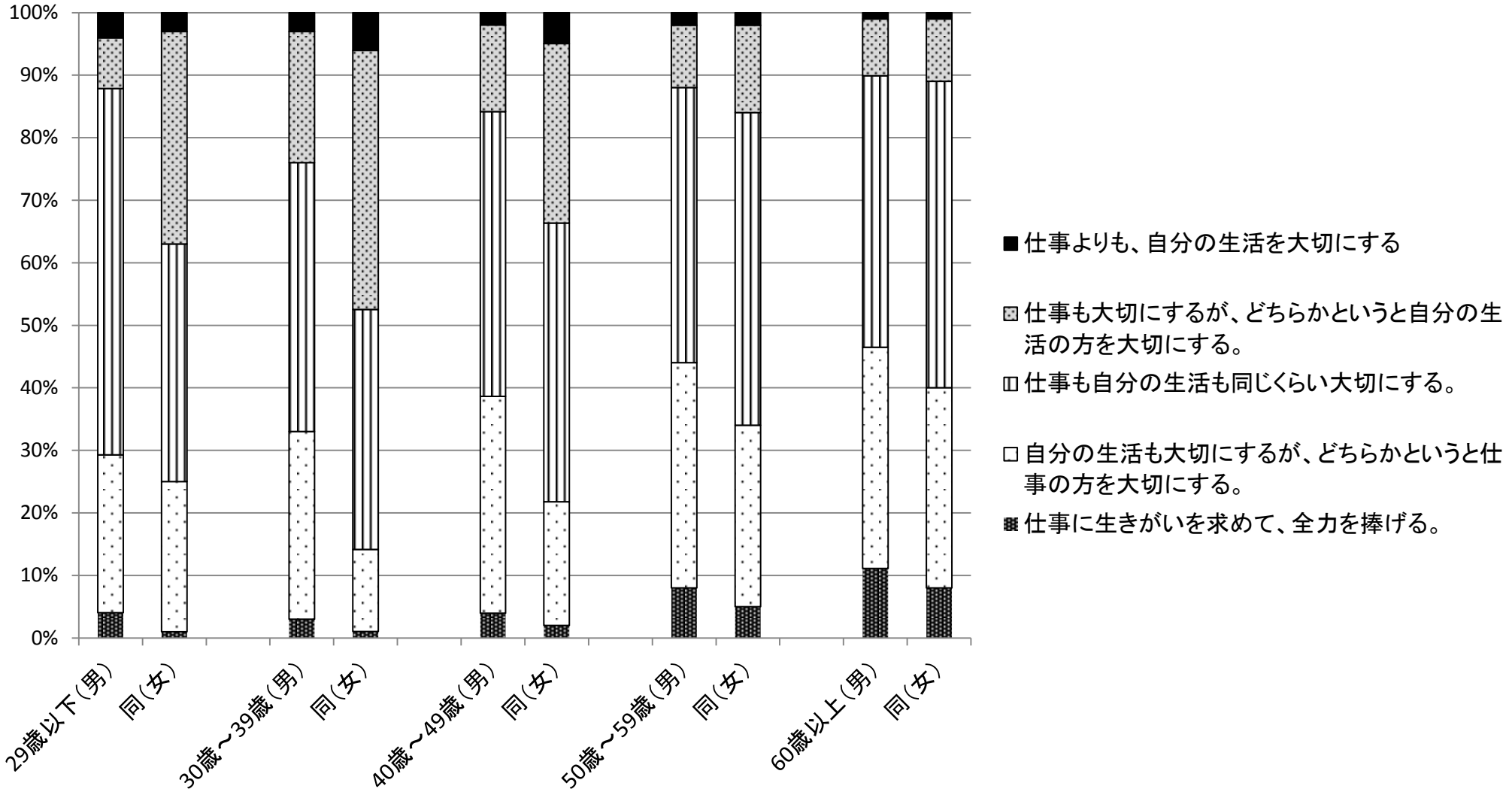
医師のモチベーションの上昇の要因（年代別）

「あなたの就労のモチベーションを上げる理由」



医師のワークライフバランスの意識（年代別）

「仕事と自分の生活のどちらに重きを置いていますか？」

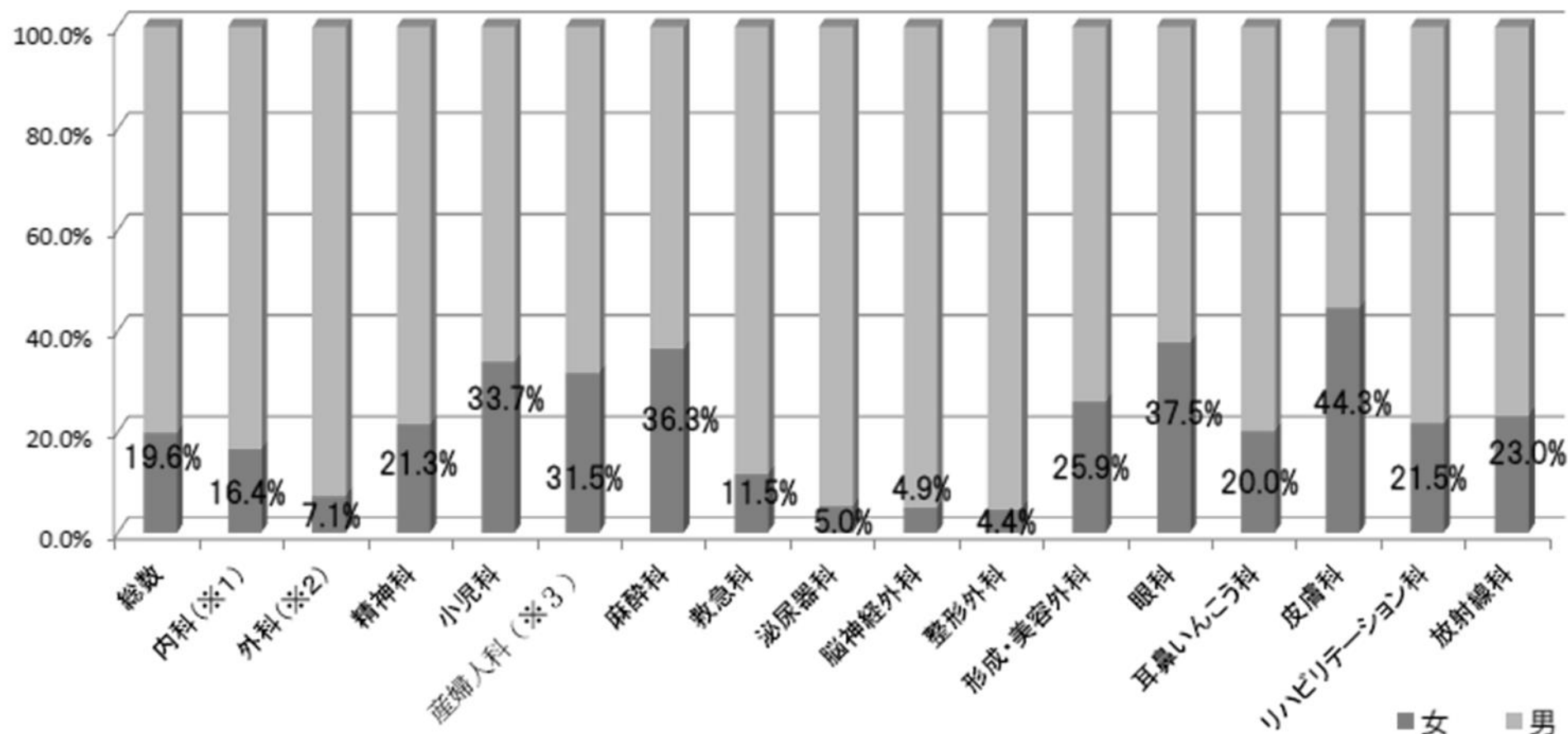


出典) 女性医師の就労支援に関するアンケート(私立大学医学部同窓会合同調査)平成23年

2. 診療科に関する課題

平成24年 診療科別 医師男女比

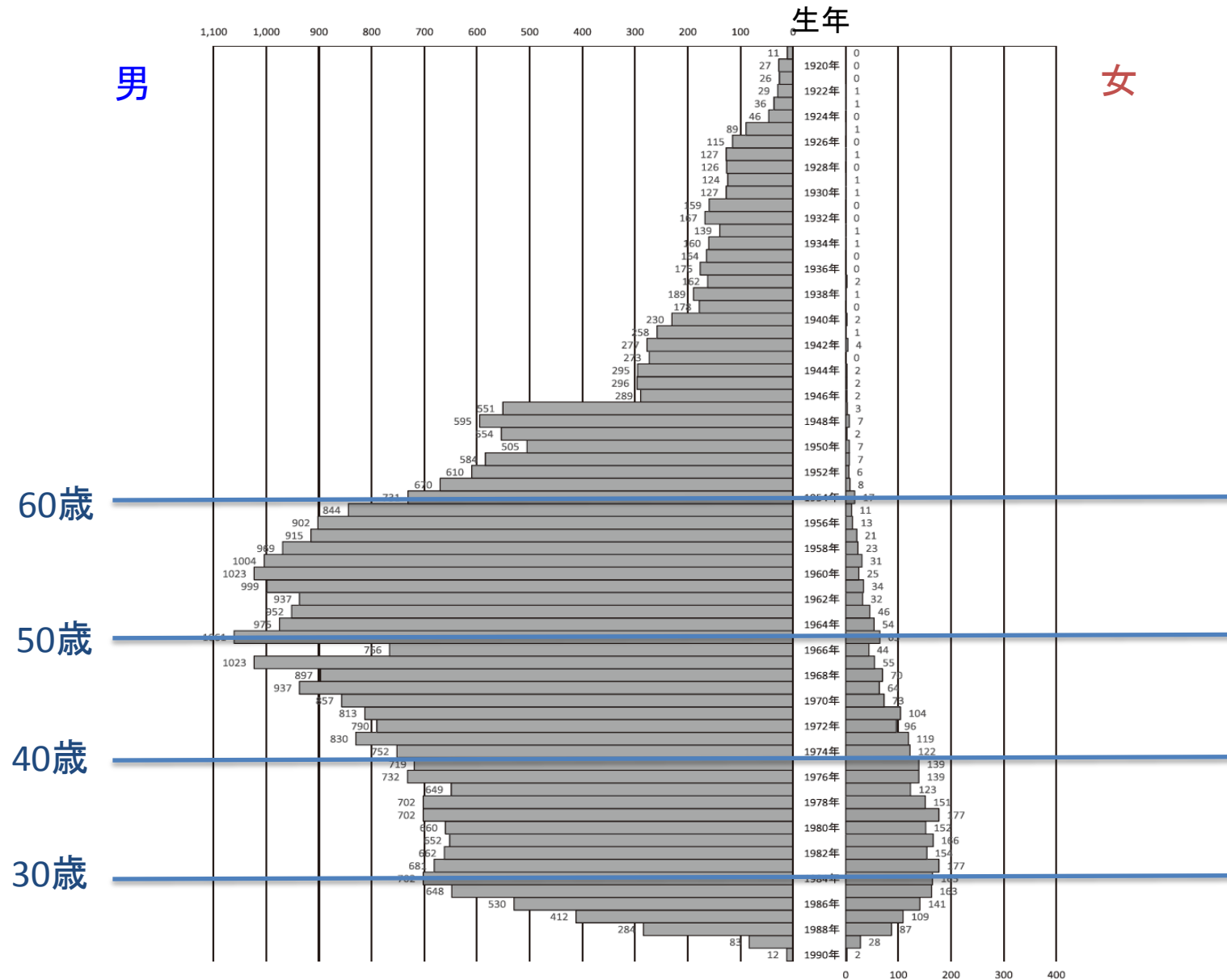
- 医療施設従事医師数の女性割合は19.6%であり、22年の18.9%と比べて増加している。
- 皮膚科や小児科、産婦人科といった診療科では女性医師の占める割合は高いが、外科や脳神経外科などの診療科では、非常に低い。



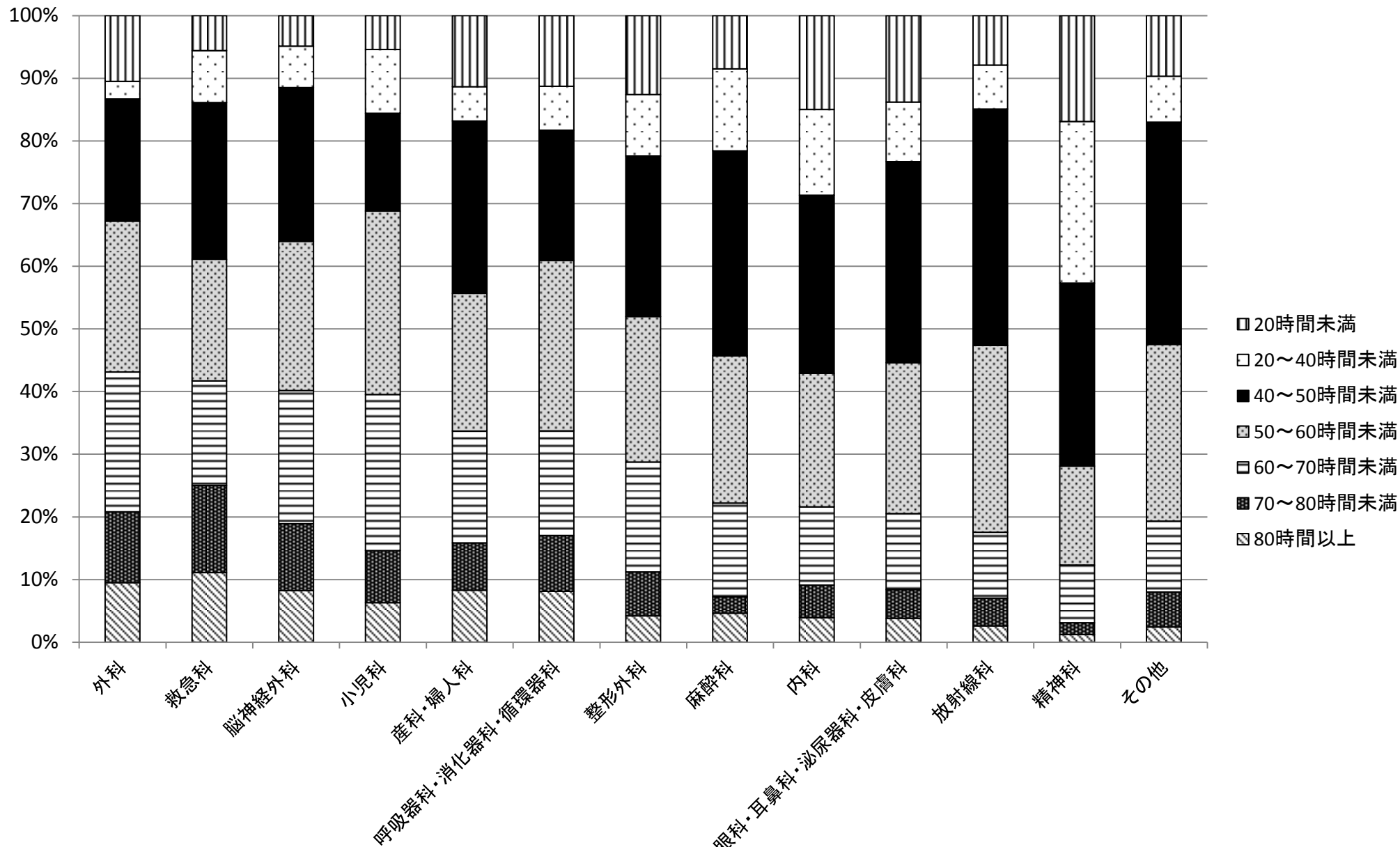
※1…内科、腎内、血内、糖尿病、循内、消内、神内、アレルギー、リウマチ、感染症、心療内科
 ※2…外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、気管食道外科、肛門外科、小児外科
 ※3…産婦人科、産科、婦人科

(出典)平成24年 医師・歯科医師・薬剤師調査

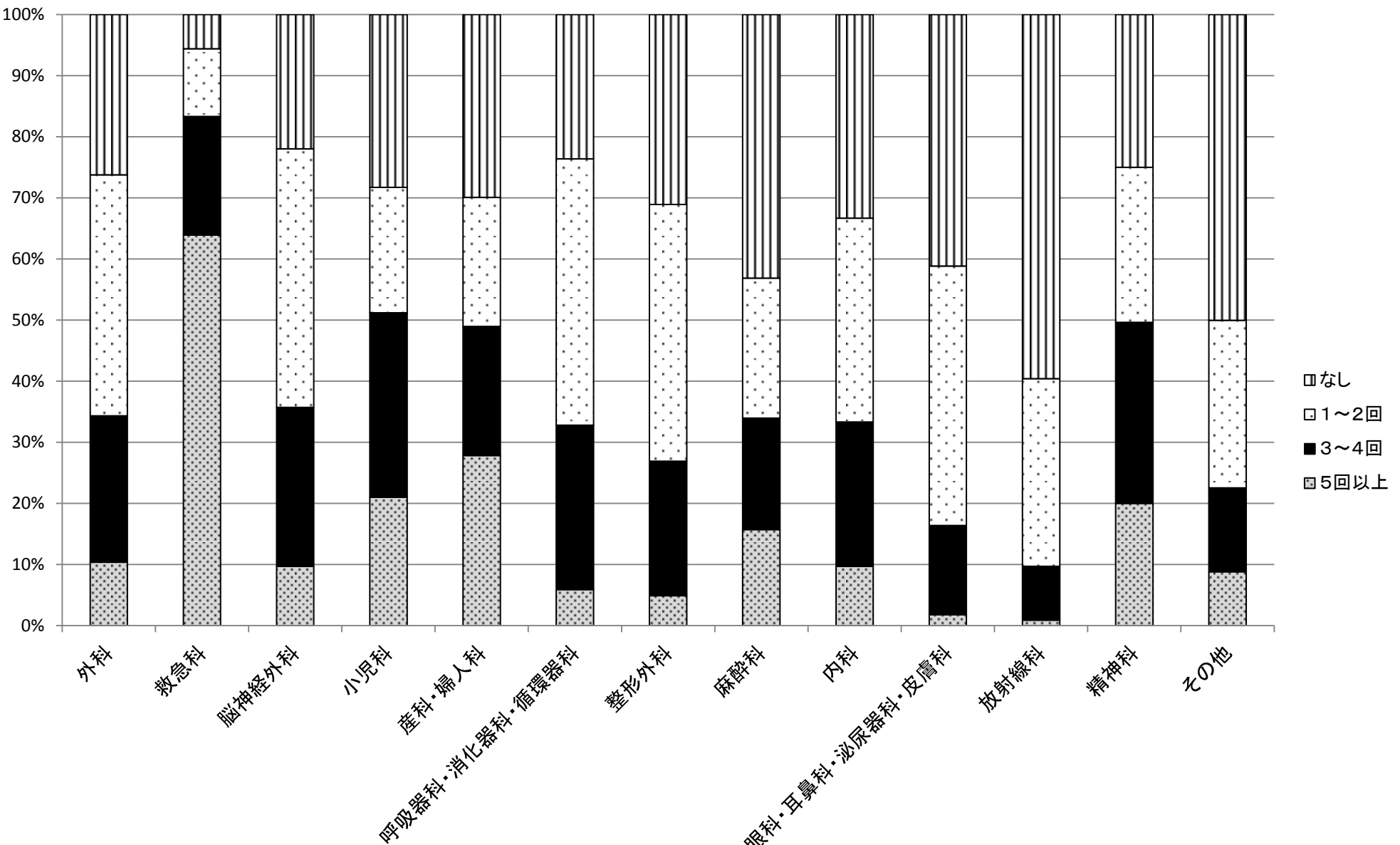
日本外科学会性・年齢別 会員数



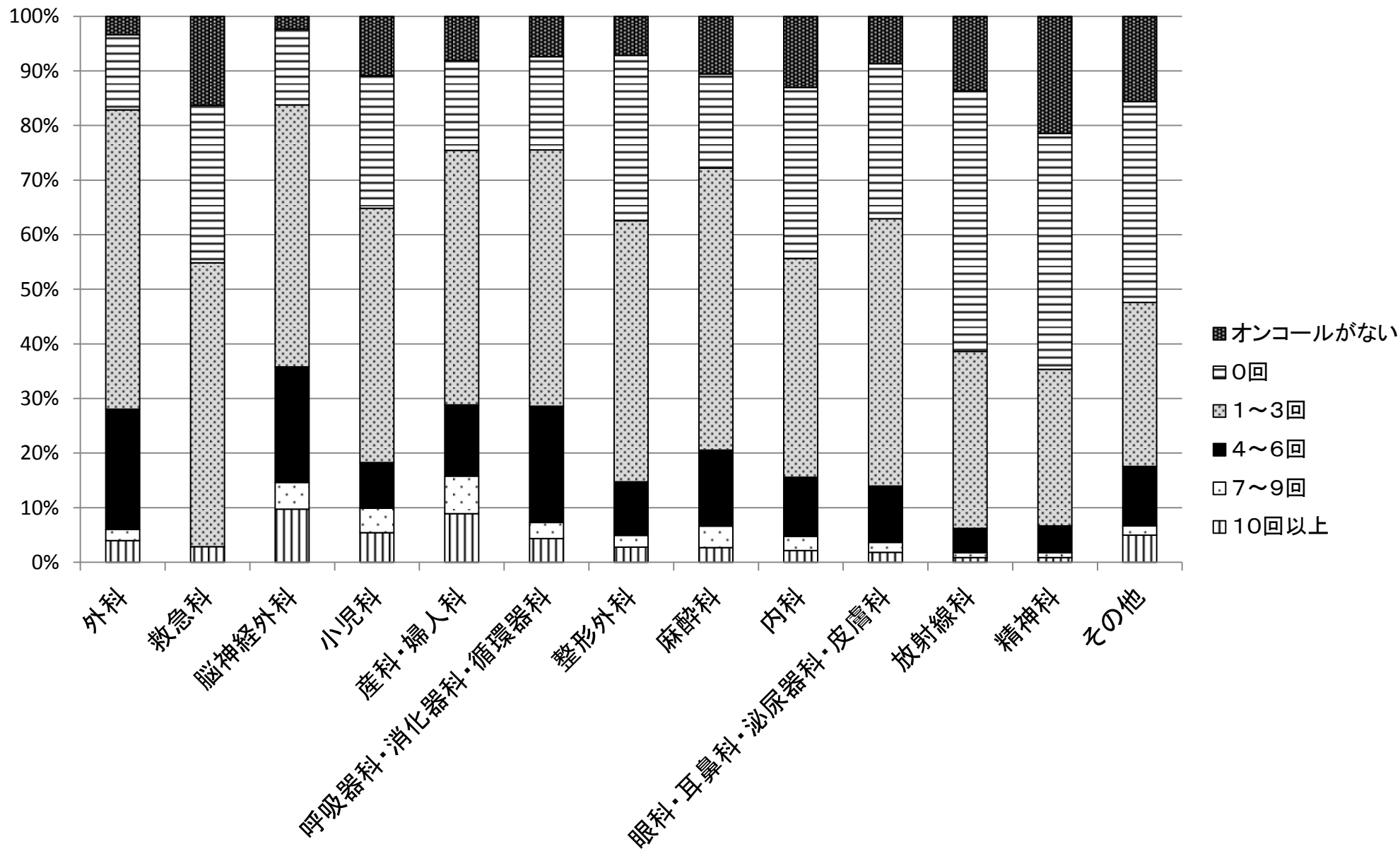
診療科ごとの勤務医の労働時間の比較



診療科ごとの勤務医の宿直回数（月ごと）の比較

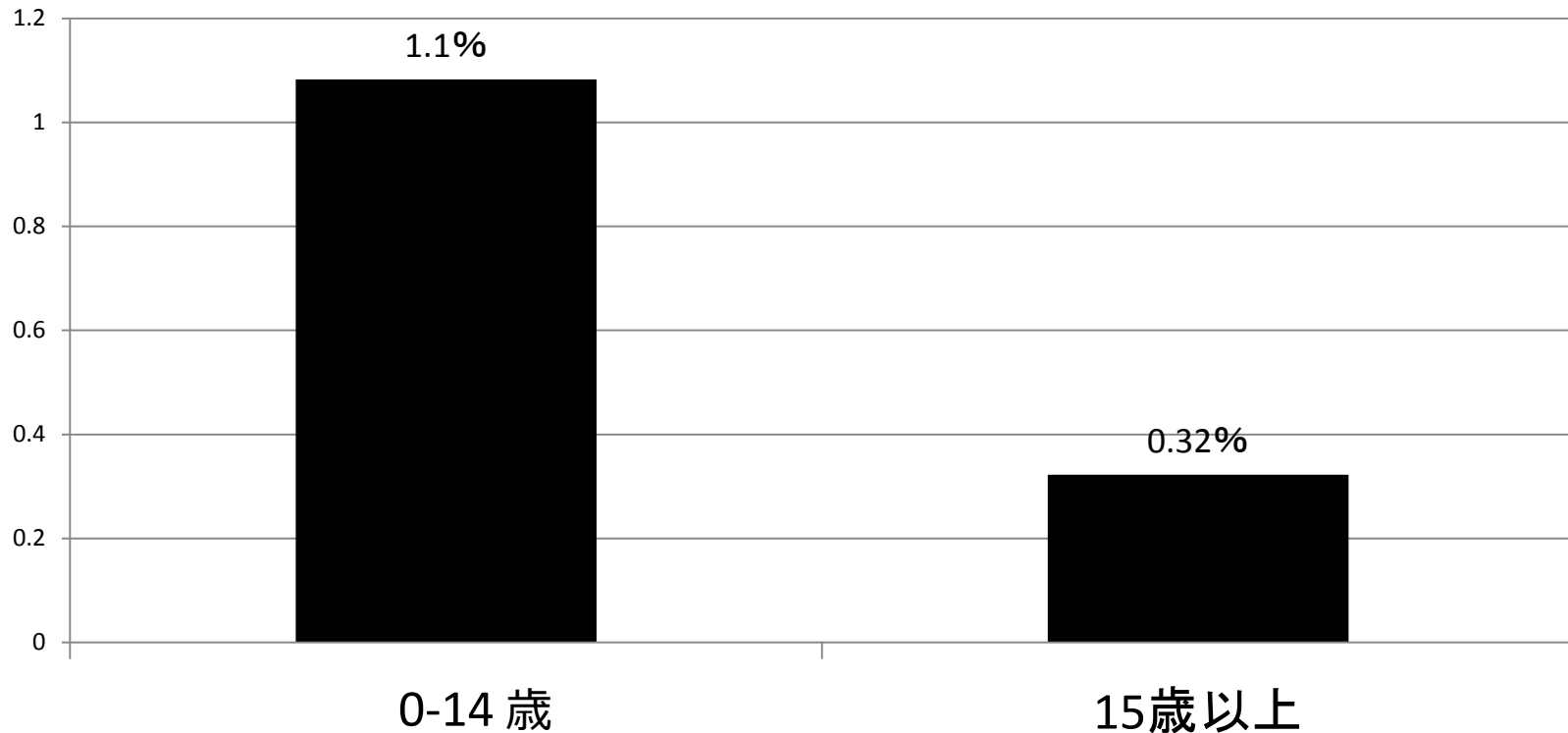


診療科ごとの勤務医のオンコール回数（月ごと）の比較



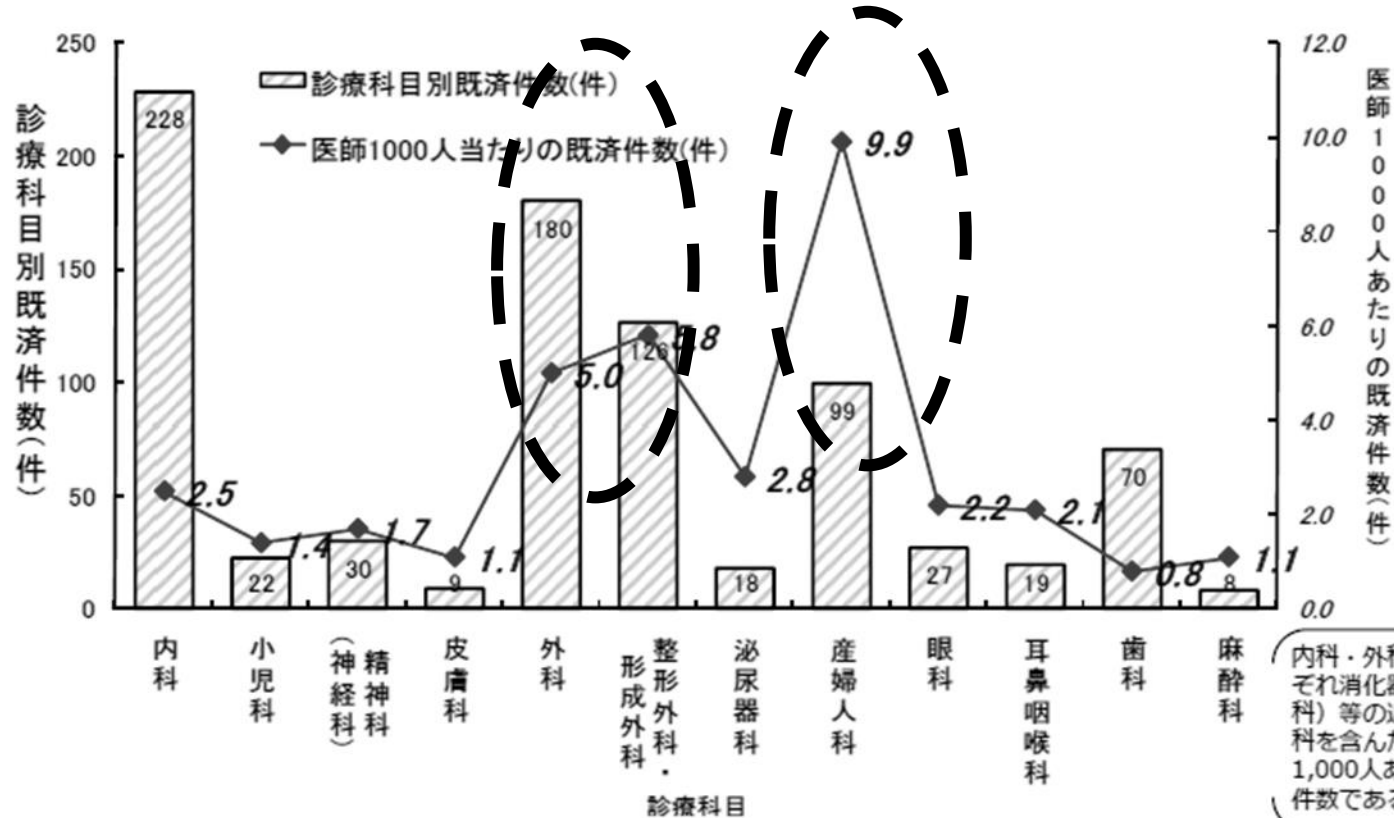
小児医療における休日・深夜診療の割合

全外来診療に占める休日・夜間診療の割合（15歳未満の方が高い（約3倍））



平成26年社会医療診療行為別調査より
初診料+再診料の算定回数に占める休日加算・深夜加算の算定割合を、
0-14歳（15歳未満）と15歳以上とで比較した。

各診療科における訴訟リスク

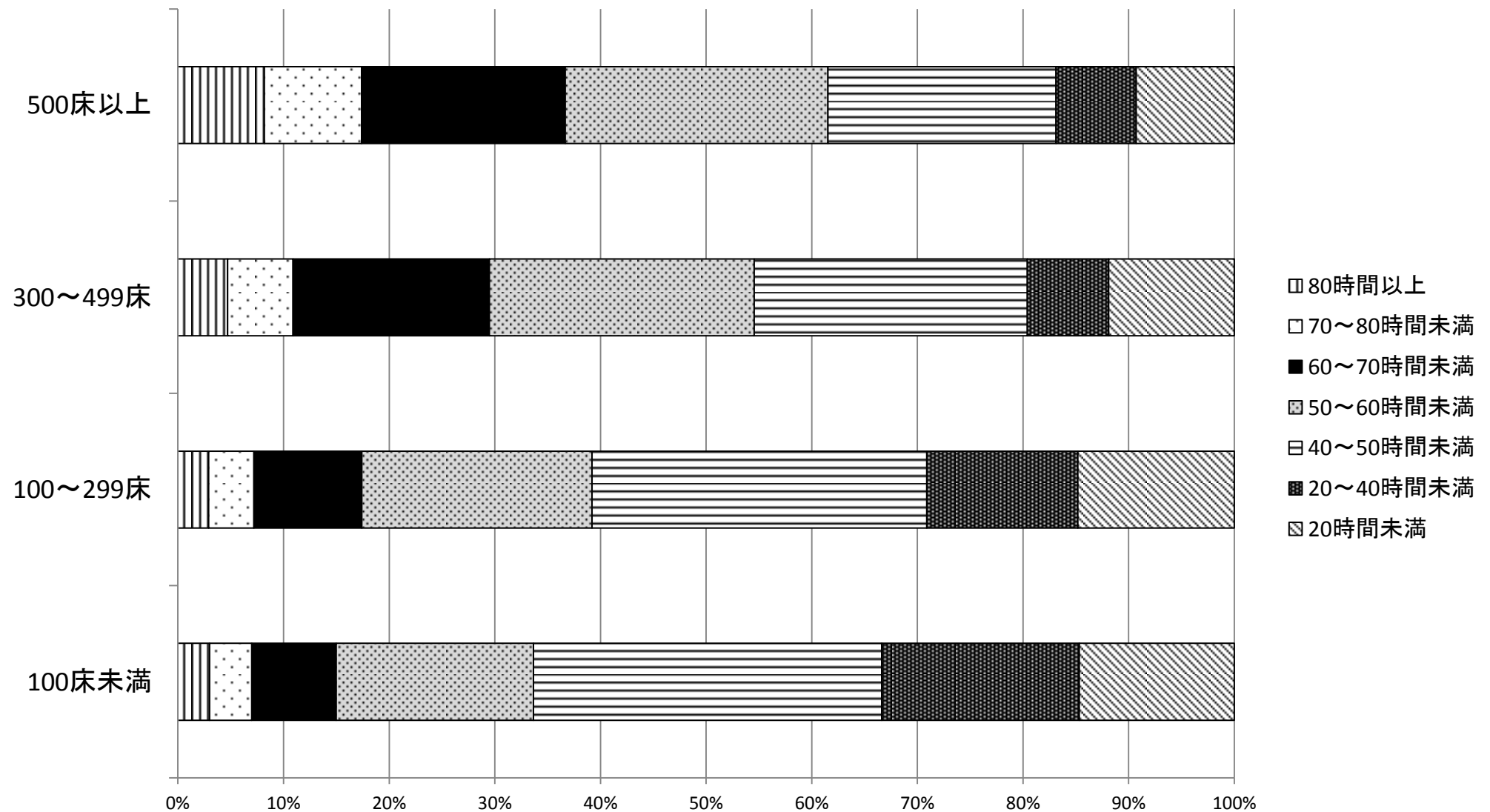


内科・外科等に、それぞれ消化器科（胃腸科）等の近接した診療科を含んだ場合の医師1,000人あたりの既済件数である。

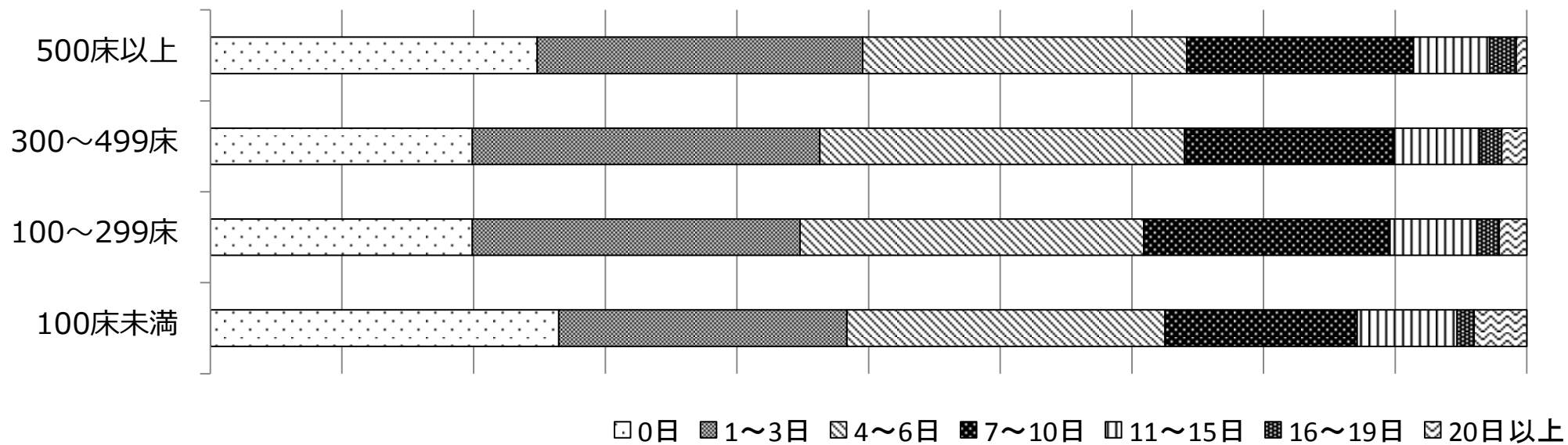
- 注) 1 既済件数については、最高裁判所ウェブサイトによる（概数）。複数科目に該当する場合は、そのうちの主要な一科目に計上している。
- 2 各科の医師数については、平成20年医師・歯科医師・薬剤師調査における医療施設に従事する医師の主たる診療科に基づき、以下のように算出している。
- ・内科については、内科、呼吸器内科、消化器内科（胃腸内科）、循環器内科、腎臓内科、糖尿病内科（代謝内科）、血液内科、感染症内科の医師数を合計
 - ・精神科（神経科）については、精神科、神経科の医師数を合計
 - ・外科については、外科、脳神経外科、呼吸器外科、心血管外科（循環器外科含む）、小児外科、肛門外科、気管食道外科、リハビリテーション科、乳腺外科、消化器外科（胃腸外科）の医師数を合計
 - ・整形・形成外科については、整形外科、形成外科、美容外科の医師数を合計
 - ・歯科については、歯科、口腔外科の歯科医師数を合計
- 3 医師1,000人当たりの既済件数は、医師数に基づいて、厚生労働省において算出したものである。

3. 施設に係る課題

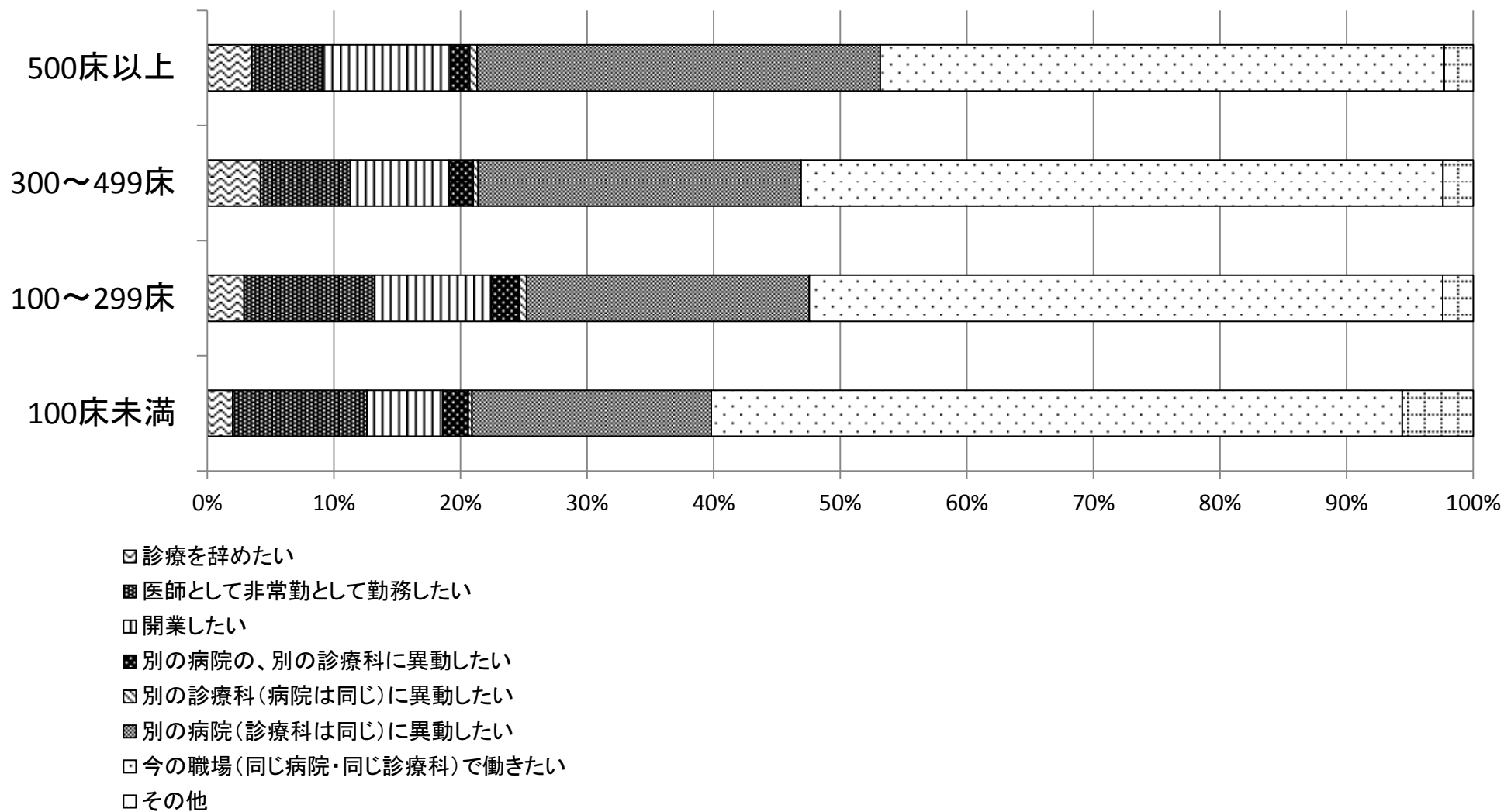
病床規模別にみた勤務医の労働時間の比較



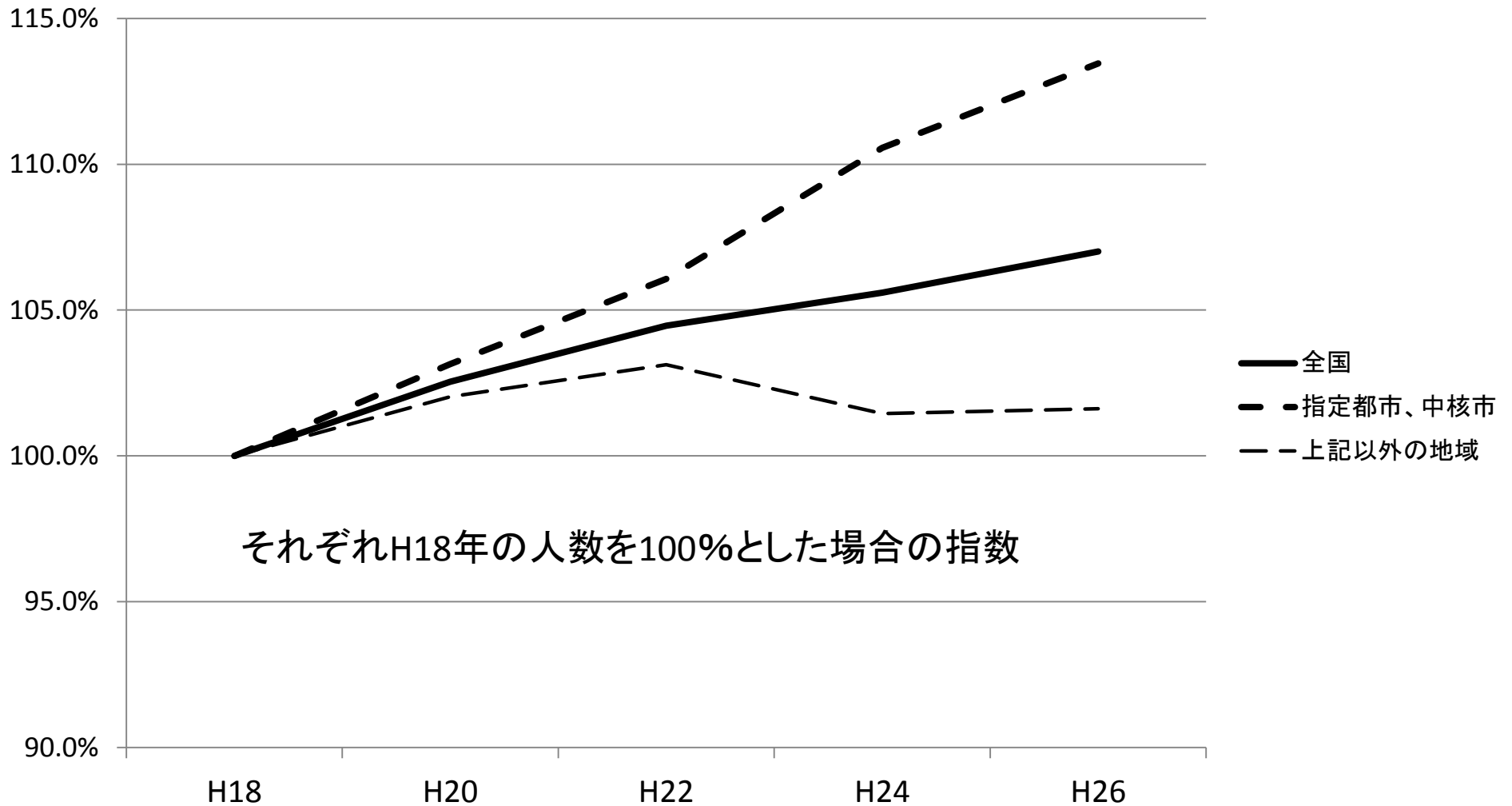
病床規模別にみた年次有給休暇取得日数



病床規模別に見た勤務医の将来の働き方の希望



診療所従事医師数の推移（地域別）

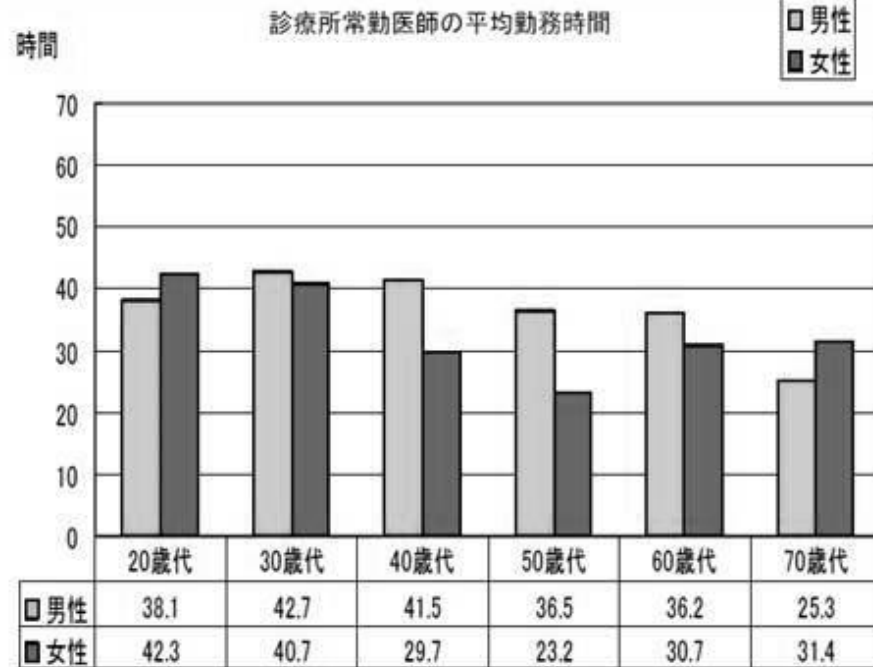
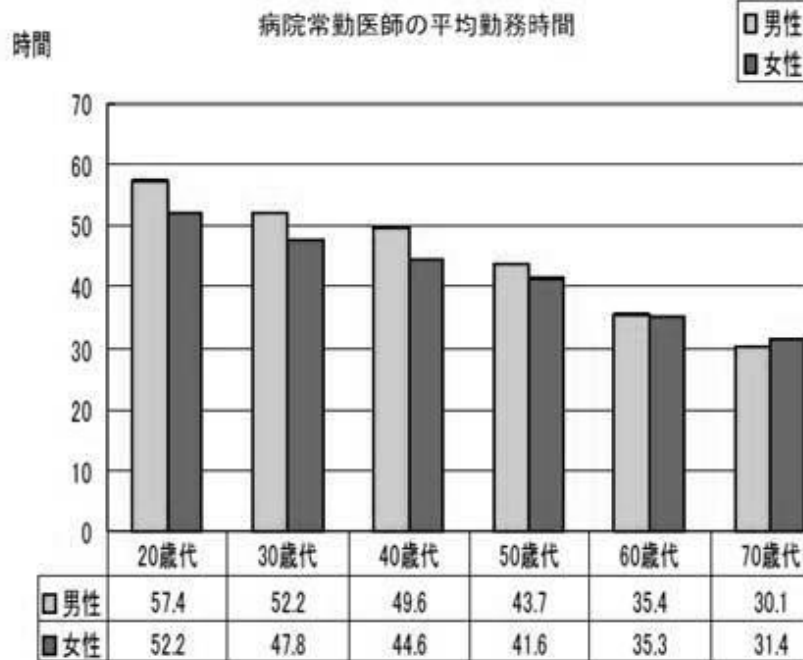


※H19年以降、新たに指定都市・中核市に加わった、堺市、前橋市、大津市、豊中市、枚方市、久留米市、那覇市については、それぞれの年の「指定都市・中核市」から除いてある。

4. 就労環境に関する課題

「医師需給に係る医師の勤務状況調査」による医師の勤務時間

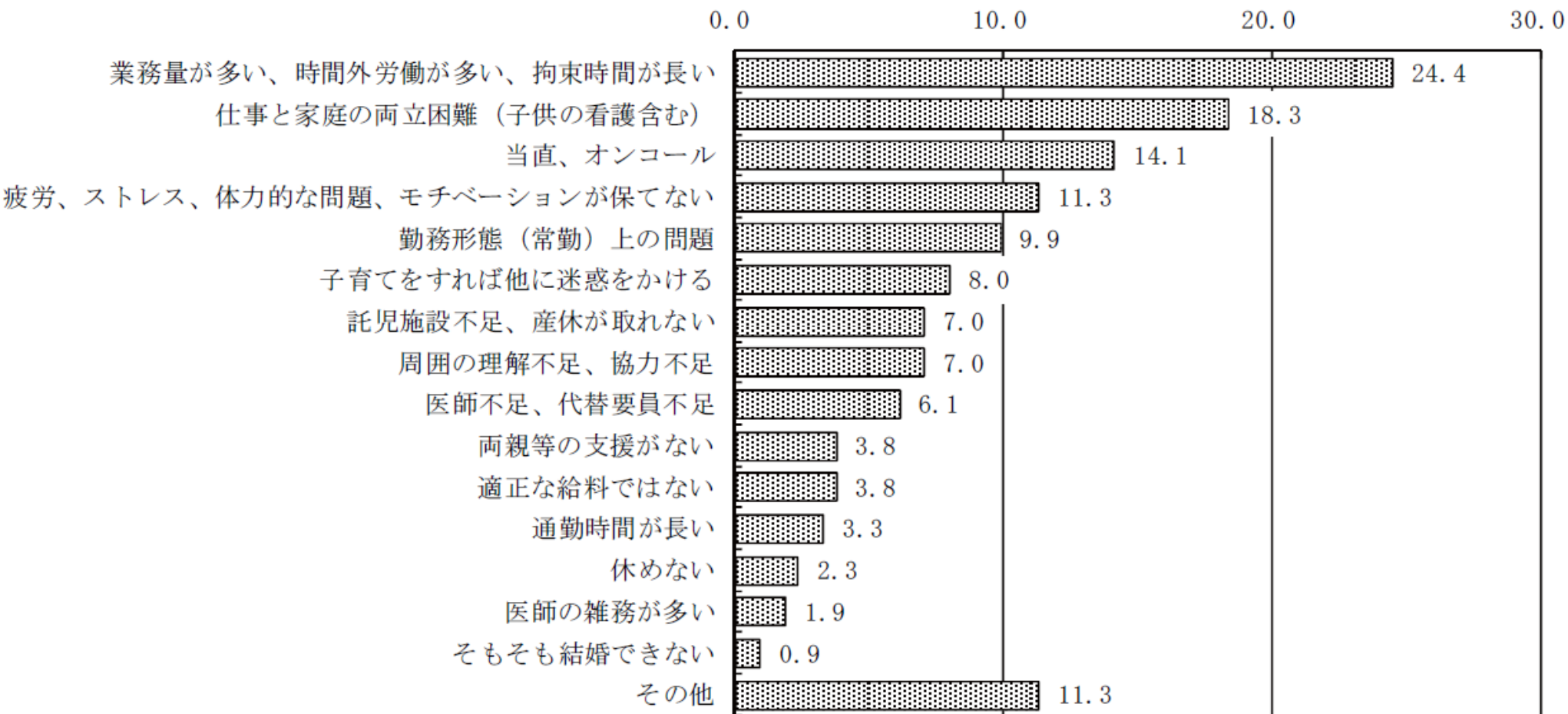
- 医師の勤務時間について調査を行い、233病院から、病院常勤医師4077人の有効回答を得、650診療所から、診療所常勤医師536人の有効回答を得た。
- 医師が医療機関に滞在する時間のうち、診療・教育・会議等の時間を合計し、休憩時間・自己研修・研究等を除いたものを勤務時間とすると、年齢階級別の勤務時間は下記の通りであった。
(病院常勤医師の平均勤務時間は平均で週48時間であるが、診療所常勤医師の平均勤務時間は平均すると週40時間を下回っている。)
- 休憩時間や自己研修・研究等に充てた時間を含めた滞在時間を勤務時間とすると、病院常勤医師の場合、平均すると合計で週63.3時間であった。



平成18年3月 医師需給に係る医師の勤務状況調査

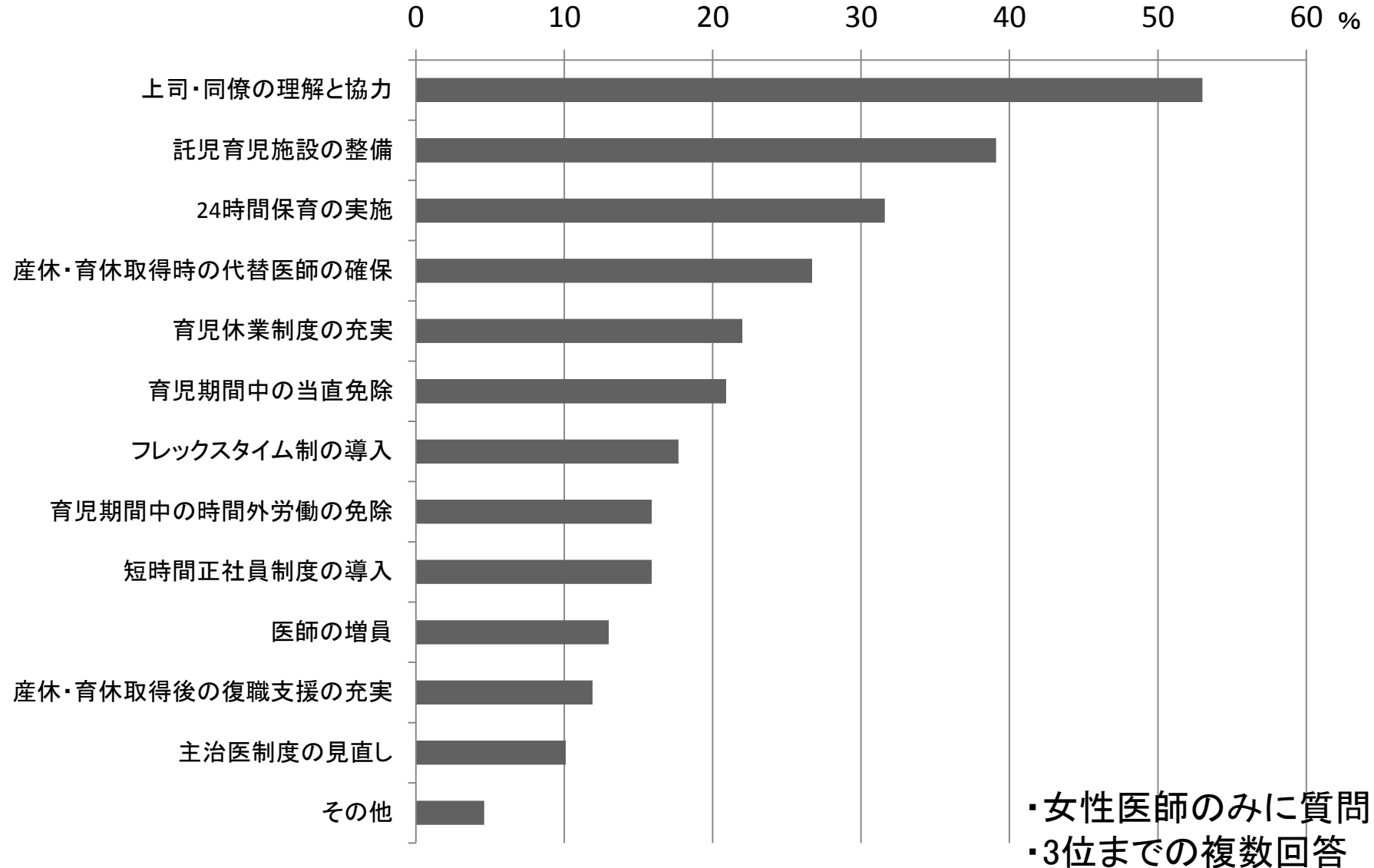
(調査期間は、平成17年末から平成18年初頭のうち任意の1週間である。)

出産後に勤務医が常勤として業務継続できない理由



※将来、出産した場合に常勤の勤務医として仕事を「続けられると思わない」と回答した者の自由記述をコーディングして集計。

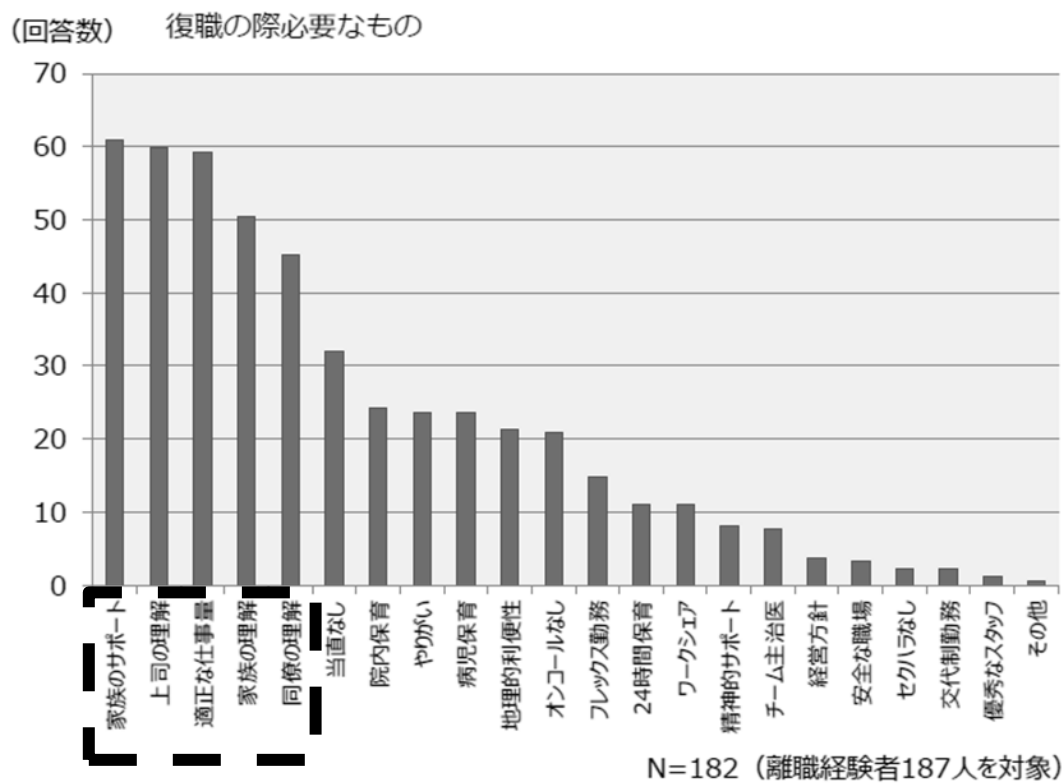
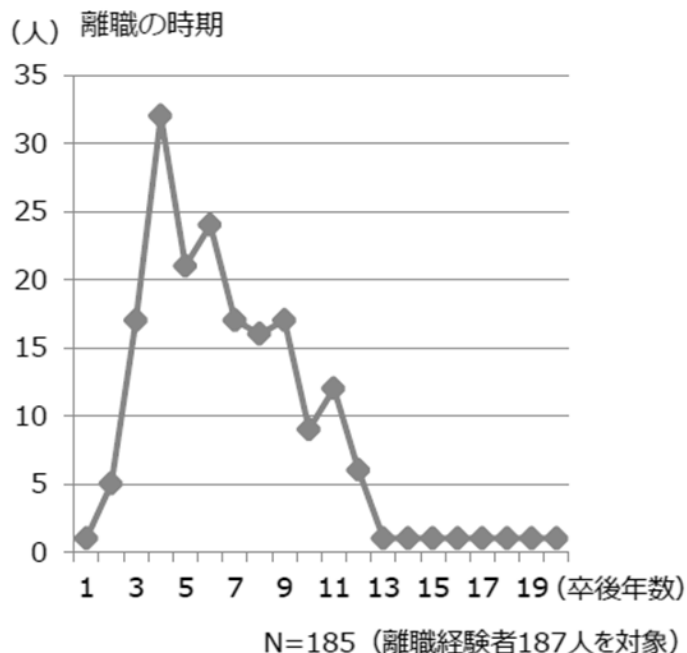
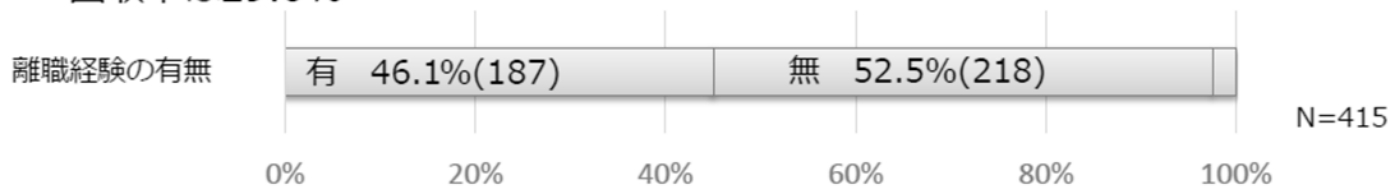
女性医師が仕事と子育てとを両立しながら働き続けることができる環境を整備するための方策



1. アンケートによる現状分析とニーズ調査

平成19年度と21年度に岡山大学医学部卒業生及び入局者1,400名に対してアンケートを施行。
回収率は29.6%

平成26年8月8日 第1回 女性
医師のさらなる活躍を応援する
懇談会 片岡構成員提出資料



***離職**: 無給かつ復帰時期が未定で職を離れることと定義した。産前・産後休暇・育児休業など給与が発生し、復帰時期が決まっている休暇・休業は含まない。

*女性医師の46.1%が離職を経験し、その時期は92%が卒後10年以内であった。一旦離職した女性医師の51%が1年以内に復職しており、離職したままの医師は3%(n=6)と少数である。しかし、復職時には約30%が常勤→非常勤となり、90%以上が不安を抱えながら復帰している。

*復職の際に必要なものとして、家族のサポート、上司の理解などソフト面の要因を挙げた意見が目立った。

*女性医師支援の活動に求めるものとして67.4%が「復帰しやすい職場」を挙げ、次いで43.1%が病児保育施設の設定を挙げた。

2. 離職防止と復職支援

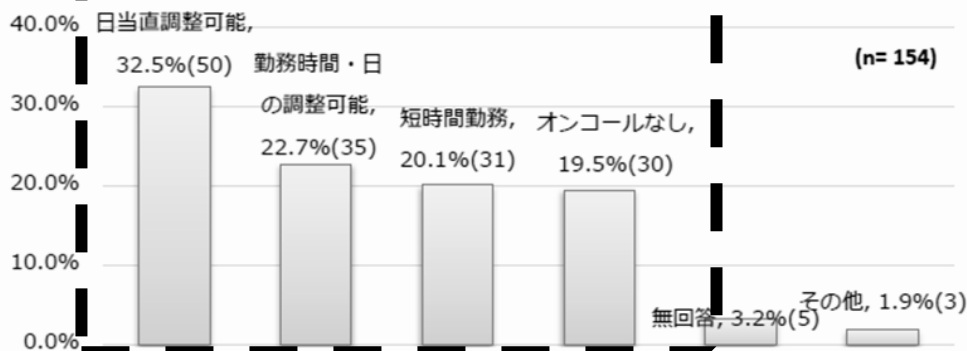
平成26年8月8日 第1回 女性
医師のさらなる活躍を応援する
懇談会 片岡構成員提出資料

キャリア支援制度についてのアンケート

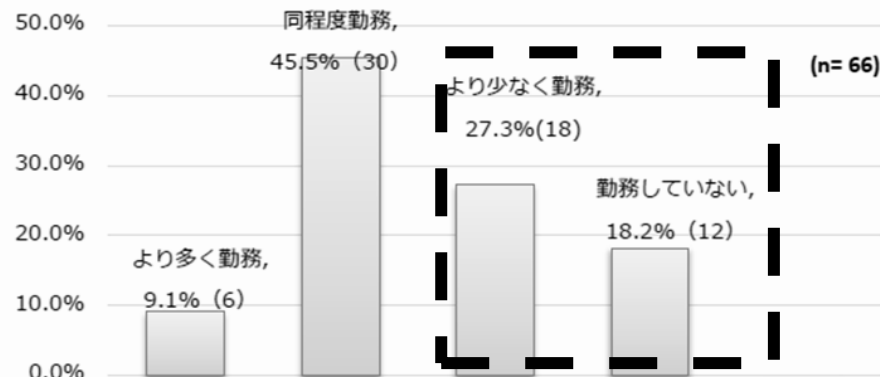
キャリア支援制度を利用した医師、キャリア支援制度を利用する医師を受け入れる職場の上司・同僚にアンケートを行った。

制度利用者へのアンケート

キャリア支援制度の利点（選択肢から上位3つ）

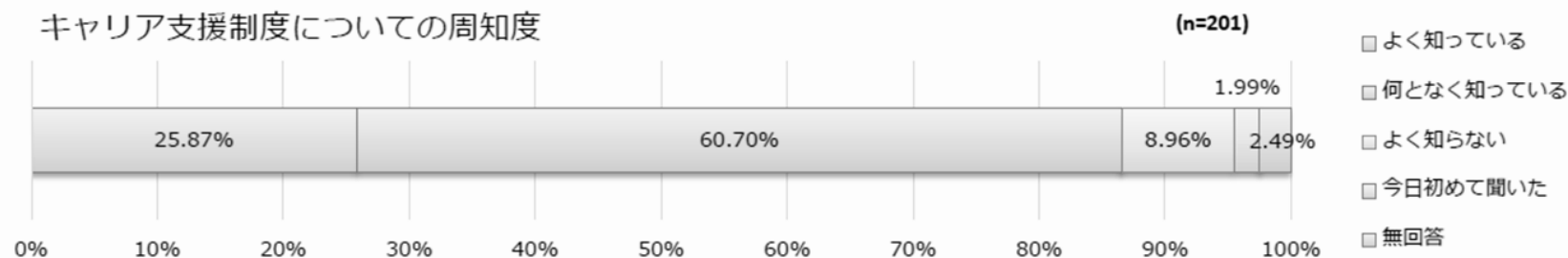


キャリア支援制度がなかったらどのように働いたか

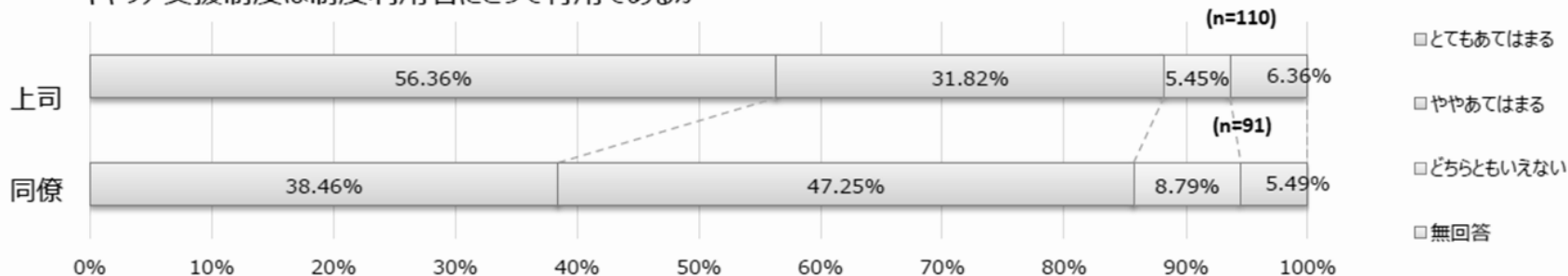


上司・同僚へのアンケート

キャリア支援制度についての周知度



キャリア支援制度は制度利用者にとって有用であるか

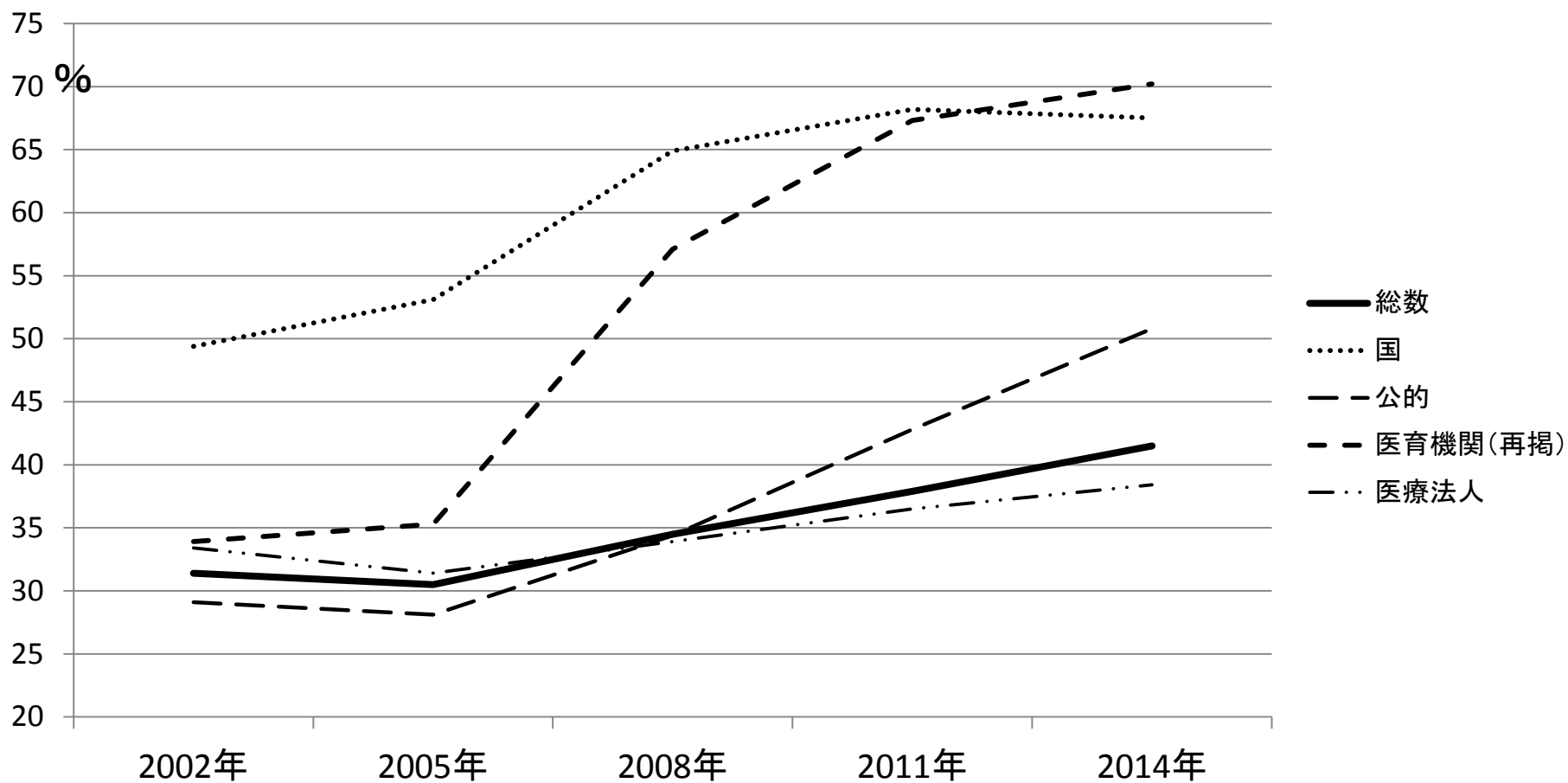


外科領域におけるキャリア支援のニーズ

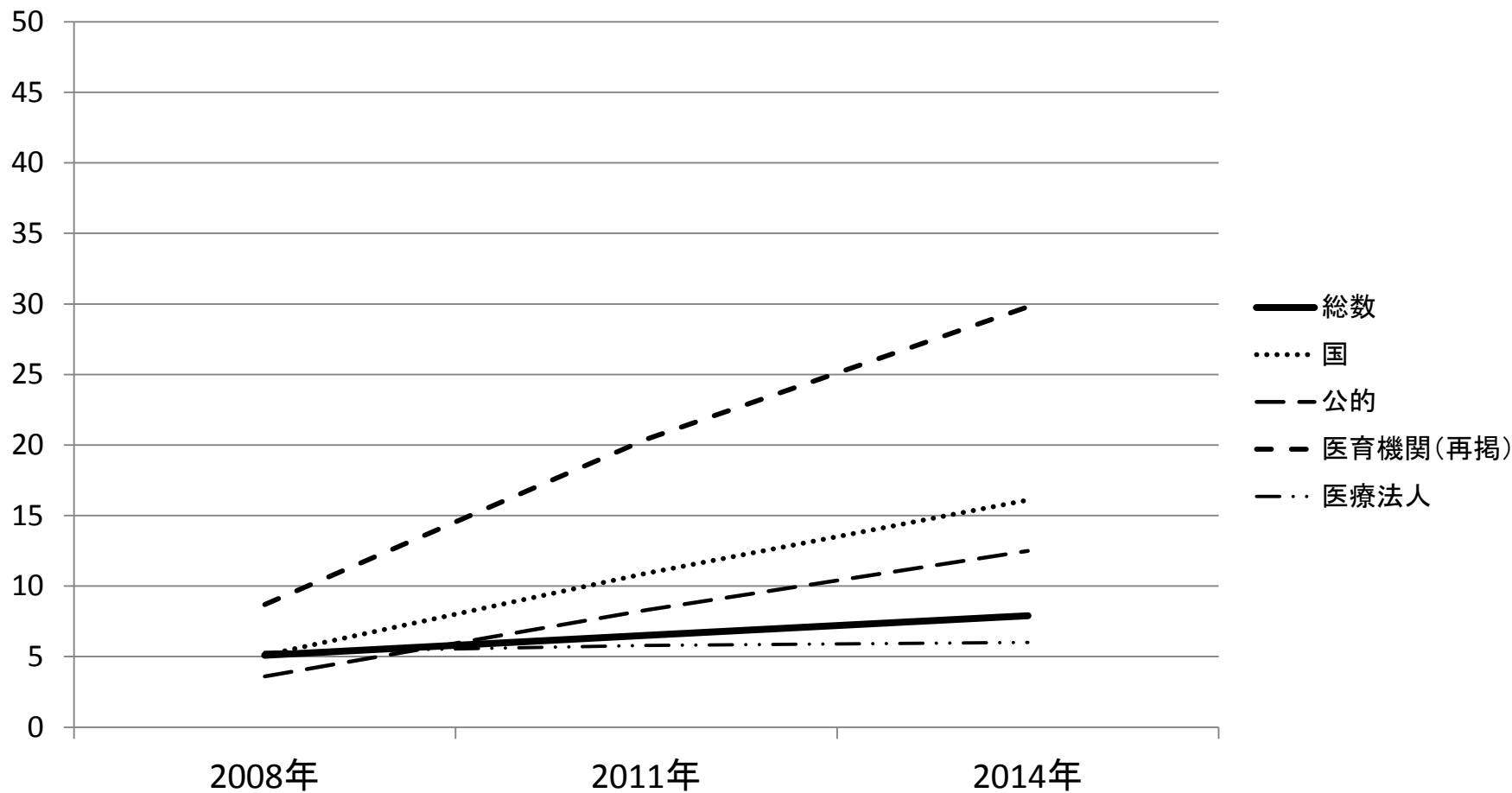
医師のキャリアを積む上で、支援が欲しいと思ったことは何ですか

	回答数		男性	回答数		女性
		(%)			(%)	
勤務医師労働条件の明確化(労働時間、給与など)	1900	(70%)		270	(58%)	
勤務医師の身分の明確化(保険、年金など)	1195	(44%)		191	(41%)	
卒後研修制度の柔軟性	512	(19%)		82	(18%)	
留学・研究の機会に対する制度	822	(30%)		114	(25%)	
院内保育所の整備	202	(7%)		218	(47%)	
病児保育の充実	147	(5%)		194	(42%)	
ワークシェア制度の導入	349	(13%)		139	(30%)	
フレックスタイム制度の導入	463	(17%)		175	(38%)	
緊急時の代替要員の確保	1076	(39%)		230	(50%)	
職場の意識改革	1132	(41%)		202	(44%)	
家族の意識改革	145	(5%)		44	(9%)	
就職情報・人材ネットワーク	151	(6%)		41	(9%)	
育児・介護休業後などの再教育制度	97	(4%)		124	(27%)	
育児・介護休業後などの再就職制度	88	(3%)		125	(27%)	
その他	81	(3%)		10	(2%)	

院内保育所がある医療機関の割合の推移 (設立主体ごと)



院内保育所が病児保育に対応している医療機関の割合の推移 (設立主体ごと)



院内保育等の状況の地域差

当該地域の医療機関のうち、院内保育施設等へ対応を行っている施設の割合

■ 院内保育を実施している ■ 自施設の医師・歯科医師が利用可能な院内保育を実施 □ 夜間保育有 □ 病児保育有

